



**Hewlett Packard
Enterprise**

Smart Update Manager ユーザーガイド

バージョン 8.0.0

摘要

このガイドでは、SUM を使用して、HPE Synergy、Edgeline、ProLiant サーバーにファームウェアアップデートを適用し、ProLiant サーバーにソフトウェアアップデートを適用する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smart コンポーネント、VMware の構成および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。

部品番号: 881504-191
発行: 2017 年 7 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft® および Windows® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

目次

はじめに.....	8
Smart Update Manager.....	8
環境内の SUM アップデートのスケールリング.....	8
GUI について.....	8
ステータスアイコンの説明.....	10
SUM のダウンロード.....	11
SUM のダウンロードに含まれるファイル.....	11
Hewlett Packard Enterprise Web サイトからの SUM のダウンロード.....	11
SPP カスタムダウンロードのダウンロード.....	11
SDR Web サイトからの SUM のダウンロード.....	12
現在の SUM バージョンへのノード情報の移行.....	12
SUM および SPP ブート環境.....	13
SUM モード.....	14
SUM モード.....	14
展開モード.....	15
展開シナリオ.....	15
SPP を使用した ProLiant サーバー用ファームウェアの展開.....	16
SUM を使用した HPE Synergy への展開.....	16
ログファイルとディレクトリの場所の変更.....	17
SUM オンラインモードでのログファイルの収集.....	17
SUM のオフラインモードでのログファイルの収集.....	17
SUM のログファイルの場所.....	17
SUM ログの位置.....	18
GatherLogs.....	18
sum.ini ファイルの使用.....	19
デフォルト sum.ini ファイルの編集.....	19
sum.ini ファイルの作成.....	19
一時ディレクトリの変更.....	19
sum.ini ファイルのパラメーター.....	19
SUM の起動.....	21
Web ブラウザーのセキュリティ証明書について.....	21
Firefox へのセキュリティ証明書のインポート.....	21
Google Chrome へのセキュリティ証明書のインポート.....	21
Internet Explorer へのセキュリティ証明書のインポート.....	21
SUM の起動.....	21
ISO から GUI モードで SUM を起動する.....	22
RPM からの SUM の起動.....	23
PXE サーバーを使用した更新のインストール.....	23
HPE Firmware Pack for ProLiant.....	25
SPP ISO での SUM の異なるバージョンの使用.....	25
ファームウェア更新を許可するために BitLocker を無効にする (Windows のみ).....	26

SUM と BitLocker の併用について.....	27
リモートノードでの Linux の root 認証情報.....	27
Linux の sudo 認証情報を使用するための前提条件.....	28
root 認証情報での SSH キーファイルの使用.....	28
SUM へのログイン.....	29

SUM の終了.....30

SUM GUI のログアウト.....	30
SUM キャッシュのクリア.....	30

SUM GUI の使用.....31

SUM のホーム画面.....	31
SUM のアクティビティ画面.....	31
SUM のローカルホストガイドアップデート.....	31
対話式モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用.....	31
自動モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用.....	32
SUM のベースラインライブラリ画面.....	32
SUM ベースラインについて.....	33
ベースラインの追加.....	34
カスタムベースラインと ISO の作成.....	35
ベースラインレポートの生成.....	38
ベースラインの検証.....	38
ベースラインコンポーネントの再検証.....	39
ベースラインの削除.....	39
ベースラインの追加またはインベントリのキャンセル.....	39
コンポーネント構成.....	40
コンポーネントの構成.....	40
構成済みコンポーネントのエクスポート.....	40
コンポーネント構成設定のインポート.....	41
SUM のノード画面.....	42
ノードステータスについて.....	42
ライブログ情報を表示.....	42
ノードまたはその他の展開タイプの追加.....	43
IP または DNS 名を使用して 1 つのノードを追加する.....	43
アドレスの範囲を検索してノードを追加する.....	44
入力ファイルを使用したノードの追加.....	45
関連するノードの展開動作.....	45
ノード固有の追加情報.....	47
ノードの編集.....	49
ノードのアップデートの中止.....	49
ノードのインベントリの実行.....	50
ノードの展開.....	50
iLO 5 更新オプション.....	52
iLO レポジトリ.....	53
インストールセット.....	53
システムリカバリセット.....	53
システムリカバリセットの作成.....	53
iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態.....	54
SUM を使用した iLO レポジトリへの展開および管理.....	54
ノードレポートの生成.....	54
ノードの削除.....	55
サーバーの概要.....	55
Moonshot ノードの概要.....	56
ノードグループ画面.....	56

ノードグループの追加.....	56
ノードグループの編集.....	57
ノードグループのインベントリの実行.....	57
ノードグループの展開.....	57
ノードグループレポートの生成.....	58
ノードグループのアップデートの中止.....	58
ノードグループの削除.....	58
高度なトピック.....	59
IPv6 ネットワークでの SUM の使用.....	59
使用される SUM のネットワークポート.....	59
.ini ファイル内のポートアドレスの変更.....	60
SUM エンジンのトラブルシューティング.....	62
SUM が応答を停止する.....	62
SUM がユーザーを予期せずログオフする.....	62
ドライブ上の空き容量が 0 であること（ないこと）が SUM に表示される.....	63
テキストが変換されない.....	63
「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される.....	63
SUM がポートエラーを報告する.....	64
ブラウザが SUM との接続を終了する.....	64
SUM を使用しても予想どおりにユーザーがログオフできない.....	64
ベースラインのトラブルシューティング.....	65
SUM の依存関係の問題.....	65
SUM がセルフインベントリコンポーネントの依存関係エラーを表示する.....	65
SUM がコンポーネントを検証しない.....	65
SUM が、同一コンポーネントの複数のバージョンを表示する.....	66
コンポーネントが無効として表示される.....	66
カスタムベースラインの画面にノードタイプが表示されない.....	67
リモートデスクセッションを終了した後、SUM がベースラインを保存しない.....	67
SUM が HTTP ベースラインを検証しない.....	67
SUM 画面に古い情報が表示される.....	68
ベースラインを追加するとき、SUM がブラウザを更新する.....	68
SUM が展開用のコンポーネントを選択できない.....	68
SPP ISO に対してベースラインインベントリが応答しない.....	68
ノードのトラブルシューティング.....	70
選択したすべてのサーバーで、SUM のオフライン展開を開始できない.....	70
SUM で sudo ユーザーの問題が発生する.....	70
SUM 展開ボタンが表示されない.....	70
SUM ノードのインベントリが失敗する.....	71
SUM がノードを検出しない.....	72
Linux ホストで Windows ノードが追加されない.....	72
SUM がノードに接続できない.....	72
NIC ファームウェアがアクティブ化されない.....	73
コンポーネントのバージョン情報が表示されない.....	73
open_firewall コマンドが動作しない.....	73
リモートノードのファイアウォールエラー.....	73
HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるかの確認.....	74
SUM が Broadcom ポートをスキップする.....	74

SUM が OA アップデートを間違って報告する.....	75
SUM で Windows クラスタードへの展開が行われない.....	75
SUM がノード入力ファイルの詳細に含まれる暗号化キーを処理しない.....	75
VMware のトラブルシューティング.....	76
RPM アップデートが VMware ノードを展開しない.....	76
カスタムベースラインに VMware ノード用の RPM コンポーネントが含まれている.....	76
レポートのトラブルシューティング.....	77
SUM がレポートを生成しない.....	77
対話式 CLI モードでのコマンドの実行.....	78
コマンドラインからの SUM のアップデート.....	78
ノードの展開.....	78
abort.....	78
activate.....	80
add.....	81
configure.....	87
delete.....	89
deploy.....	91
findavailablenodes.....	92
generatereports.....	94
getattributes.....	95
getbaselines.....	97
getcomponentlogs.....	98
getcurrentlyinstalledversions.....	99
getenginestatus.....	101
getlogs.....	102
getneededupdates.....	104
getnodes.....	105
inventory.....	106
login.....	108
setattributes.....	110
shutdownengine.....	117
ファームウェア RPM の展開.....	119
SUM RPM ツールについて.....	119
SPP ISO および RPM について.....	119
ファームウェア RPM へのアクセス.....	119
前提条件.....	119
YUM ディストリビューションの使用 (RedHat)	119
Zypper ディストリビューションの使用 (SuSE)	120
ファームウェアコンポーネントの展開.....	120
その他の RPM コマンド.....	121
info.....	121
list.....	121
クエリ.....	123
消去.....	124
RPM のダウンロードがブロックされる.....	124
smartupdate upgrade がエラーを返す	124
RPM モードで Smart アレイのファームウェアが正しく処理されない.....	125

Web サイトおよびサポート	126
Web サイト.....	126
サポートと他のリソース.....	126
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	126
アップデートへのアクセス.....	127
カスタマーセルフリペア (CSR)	127
リモートサポート (HPE 通報サービス)	127
保証情報.....	128
規定に関する情報.....	128
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	129

はじめに

Smart Update Manager

SUM は、ProLiant サーバー、BladeSystem エンクロージャー、Moonshot System、およびその他のノードのファームウェア、ドライバー、およびソフトウェアのメンテナンスツールです。柔軟性と適応性を高めるために、ブラウザベースの GUI やスクリプト可能なコマンドラインインターフェイスが用意されています。

SUM は相互依存性の問題を回避するために、同時にアップデートできる関連ノードを特定します。

SUM の主な機能には、以下が含まれます。

- ノードに取り付けられているハードウェアや、インストールされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョンを検出する検出エンジン。
- SUM は、アップデートを正しい順序で展開します。また、アップデートの展開前にすべての依存関係が満たされていることを確認します。
- 相互依存性チェック。
- 自動化され、ローカルホストが正しい順番でユーザーをガイドするアップデートプロセス。
- Web ブラウザーベースのモード。
- カスタムベースラインと ISO を作成する機能。
- iLO レポジトリのサポート (Gen10 iLO 5 ノードのみ)。
- 複数のリモートノード用のファームウェアとソフトウェアの同時展開。
- SPP によるローカルのオフラインファームウェア展開。
- すべてのモードでの広範なログ機能。

注記:

SUM は、コントローラーに接続されているフラッシュ式ハードディスクドライブを含め、他社製のコントローラーをサポートしません。

環境内の SUM アップデートのスケールリング

SUM は、すべての SUM モードで一度に最大 50 ノードの展開をサポートします。展開に要する時間は、システムおよびサーバーの環境変数によって異なります。

注記:

VMware ノードのアップデートは、一度に最大 10 までにしてください。

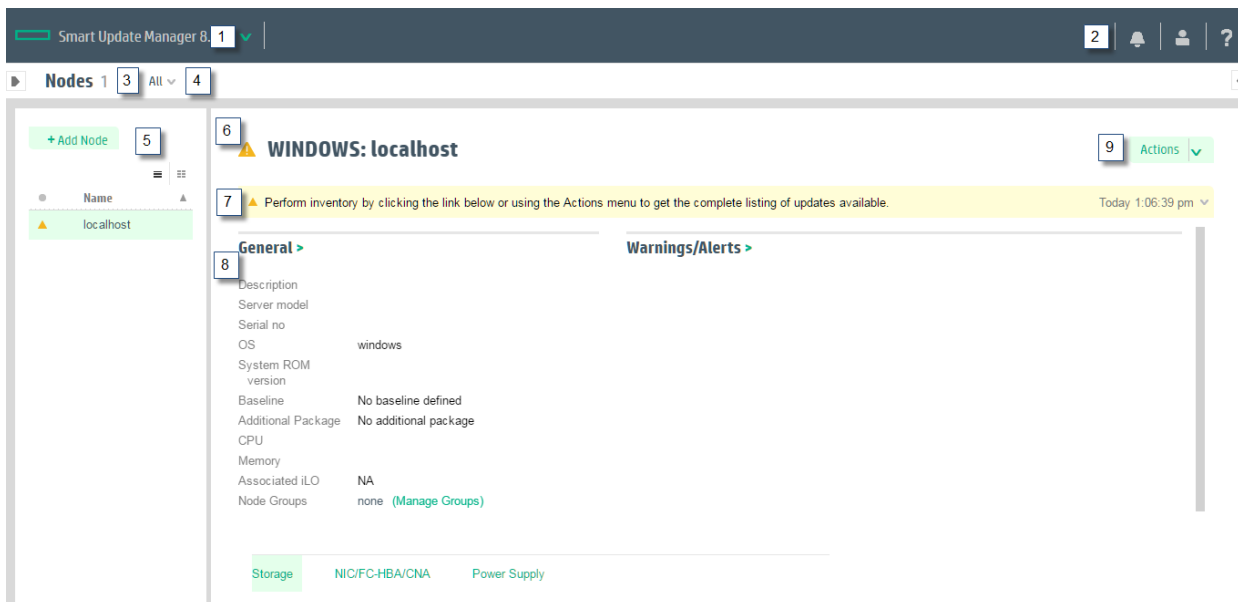
GUI について

SUM は Web ブラウザーベースのアプリケーションです。GUI を起動すると、システムではデフォルトの Web ブラウザーが使用されます。

注記:

ブラウザウィンドウの戻るボタンは使用しないでください。

以下の図は、GUI の主な領域を表しています。画面のオプションは、ノードタイプによって異なります。



番号	説明
1	メインメニュー - すべてのアプリケーション画面へのリンクを提供します。
2	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティリスト - ステータスアップデートが一時的に表示され、アクティビティアイコンが最新の動作のステータスを示します。アクティビティパネルを開くにはアクティビティアイコンをクリックします。 ログイン情報 - 現在ログインしているユーザーを表示し、ログアウト機能を提供します。 ヘルプ - ヘルプパネルを開きます。
3	画面名 - 画面の名前を表示します。
4	画面フィルター - 画面オブジェクトをフィルタリングします。
5	画面リスト - 画面上の項目のリストを表示します。 ノードの追加 - 画面に基づいてボタンの変更を追加します。
6	ベースラインまたはノード名 - ユーザーが画面リストで選択したベースラインまたはノードのリストを示します。この例では、選択されたベースラインの名前を示しています。
7	情報ハイライト - 選択した項目に対して実行または把握しなければならない可能性がある情報をハイライトします。すべての情報を表示するには、クリックしてこのボックスを拡大します。
8	項目詳細 - 選択している項目に関する詳細情報が表示されます。
9	アクション - 実行可能な操作が一覧表示されます。 注記: 画面のオプションは、表示している画面によって異なります。

ステータスアイコンの説明

SUM では、アイコンを使用してリソースとアラートのステータスを表したり、ディスプレイを制御したりします。

表 1: ステータスアイコン

大きなアイコン	小さなアイコン	説明
		重大な問題/中断/依存関係の問題
		警告
		OK/成功
		無効
		不明
		変更を適用中またはタスクを実行中

SUM のダウンロード

SUM のダウンロードに含まれるファイル

SUM を Hewlett Packard Enterprise Web サイトまたは Software Delivery Repository からスタンドアロンのアプリケーションとしてダウンロードします。スタンドアロンアプリケーションには、ご使用の環境用のアップデートは含まれていません。更新コンポーネントは、SPP、SPP カスタムダウンロード、または SDR から入手できます。

SUM のダウンロードには、以下が含まれています。

smartupdate

SUM は、GUI、対話式 CLI、CLI、または Linux RPM モードで実行されます。デフォルトでは、SUM は GUI バージョンで開きます。smartupdate /s と入力すると、SUM は CLI モードで動作します。smartupdate といずれかの対話式 CLI コマンドを入力すると、SUM は対話式 CLI モードで開きます。

clean-cache

SUM に関連付けられている一時ディレクトリのファイルのうち、ノードとベースラインに関するキャッシュ済み情報を含むファイルを削除します。ログは引き続き維持されます。

gatherlogs

SUM のすべてのログを収集します。SUM のトラブルシューティングの問題をデバッグする場合にログが役立ちます。

sum_migration

ノードデータを SUM の以前のバージョンから SUM の現在のバージョンに移行します。

前提条件は、<http://www.hpe.com/support/sum-rn-en> で入手できる *Smart Update Manager* リリースノートで確認できます。

Hewlett Packard Enterprise Web サイトからの SUM のダウンロード

手順

1. Web ブラウザーを起動します。
2. <http://www.hpe.com/servers/sum-download> に進みます。
3. ダウンロードするファイルをクリックします。
 - a. **Smart Update Manager**
 - ISO には、SUM とブート可能な ISO 環境が含まれています。ファームウェアコンポーネントとソフトウェアコンポーネントを追加して、カスタムベースラインを作成できます。
 - b. **Smart Update Manager RPM**
 - RPM は、Linux 用のネイティブパッケージです。Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM>) から入手できます。
 - c. **Smart Update Manager zip**
 - zip には、サポートされている Windows および Linux オペレーティングシステムで SUM を稼働するために必要なファイルが収められています。

SPP カスタムダウンロードのダウンロード

以下のことが可能です。

- カスタム SPP を作成する。
- 使用可能なファイルをダウンロードする。
- カスタム SPP を削除する。デフォルトの SPP は、ページから削除できません。

SPP カスタムのダウンロードページのヘルプについては、[SPP カスタムダウンロードの FAQ](#) ページを参照してください。

手順

1. Web ブラウザーを開き、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom> にアクセスしてください。
2. SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳しくは、[SPP 保証/サポート契約の確認に関するドキュメント](#)を参照してください。HPE パスポートへのログインが必要です。
3. 必要に応じて、[ここでのサインイン](#)をクリックして、HPE パスポートユーザーの認証情報を入力します。
4. ページの左側から、SPP を選択します。

SDR Web サイトからの SUM のダウンロード

SUM は Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM>) から RPM としてダウンロードできます。SDR には、サポートされるオペレーティングシステムとアーキテクチャタイプごとに 1 つの SUM RPM バージョンがあります。yum または zypper 構成のセットアップ方法については、SDR の Web サイトを参照してください。

yum コマンドを使用して SUM を検索し、システムにダウンロードできます。また、Web ブラウザーを使用して SDR 内を移動し、rpm をダウンロードすることもできます。

SDR から SUM を検索、ダウンロード、またはインストールするには、以下のコマンドを使用します。

```
yum search smartupdate
```

yum を使用して SUM を検索する。

```
yum install smartupdate
```

yum を使用して SUM をインストールする。

```
rpm -Uvh sum-<バージョン>.<os>-<os_version>.x86_64.rpm
```

Web ブラウザーを使用して SDR から SUM をダウンロードし、RPM をインストールする。

SDR の使用方法について詳しくは、Software Delivery Repository の Web サイト (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM>) にある「Getting Started」と「FAQ」を参照してください。

SDR での SUM の使用について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で Linux のベストプラクティスに関するドキュメントを参照してください。

現在の SUM バージョンへのノード情報の移行

SUM は、SUM の各バージョン専用のデータベースにノード情報を保存します。SUM を使用してノードを管理していた場合、SUM を起動する前にノードのデータベース情報を SUM の現在のバージョンに移行します。

手順

1. SUM ディレクトリから、sum_migration.bat (Windows) または sum_migration.sh (Linux) を起動します。
2. 画面の指示に従った後、使用している SUM のバージョンに移行するバージョンを選択します。

SUM および SPP ブート環境

USB Key Utility では単一デバイスでのマルチブート設定がサポートされません。SUM および SPP ISO は、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。署名された部分については、USB キーなどの単一デバイスでのマルチブート設定ができません。SPP は、http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl からダウンロードできます。

以下の各項では、SUM からの展開について説明します。アップデートの計画について詳しくは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトで入手できる SUM ベストプラクティスガイドを参照してください。

SUM モード

SUM モード

SUM は、ローカル展開とリモート展開をサポートします。SUM は、Windows および Linux で、オンラインモードとオフラインモードで動作します。

GUI

単一のセッションで、システムソフトウェアとファームウェアコンポーネントの複数のシステムへの展開とメンテナンスを可能にする使いやすいブラウザベースの GUI。

CLI

CLI を使用すると、カスタムインストールをスクリプト化して実行できます。GUI と対話式 CLI のすべての機能がこのモードでサポートされているわけではありません。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。

Inputfile CLI

使用するすべての SUM のパラメーターを含むテキストファイルを呼び出すことができます。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。

対話式 CLI

対話式 CLI では、SUM GUI で使用できるほとんどのコマンドをスクリプト化して実行できます。対話式 CLI から利用できる機能には、ノードとベースラインの追加、ノードの展開、ログファイルの収集、レポートの生成などがあります。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。

Linux ファームウェア RPM

Linux ファームウェア RPM モードでは、Linux ノード用の簡素化されたコマンドライン展開モードが提供されます。

ISO からの実行

ISO にアップデートが含まれる場合、ISO を DVD または USB キーにコピーできます。DVD または USB キーから、オフライン対話式モードまたは自動モードで SUM を実行できます。

- **自動モード** - ファームウェアコンポーネントがユーザーの操作なしで更新されます。自動モードを起動するには、次の操作を行います。
 1. DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。
 2. SUM は、その後すぐにアップデートを開始して展開します。
- **対話式オフラインモード** - GUI モードを使用して更新を展開できます。オフライン対話式モードを起動するには、次の操作を行います。
 - DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。

注記:

サポートされているオペレーティングシステムを実行している仮想マシン上で SUM を実行する場合は、ローカルホストシステムにアップデートを展開しないでください。リモートノードにのみアップデートを展開します。

展開モード

SUM を使用してアップデートを展開する際、以下の用語が適用されます。たとえば、これらの用語を組み合わせて、「ローカルオンライン」、「リモートオンライン」などの、環境を表すことができます。

ローカル

インストールは、更新対象の物理ハードウェア上で実行されます。サーバーのシステム ROM のアップデートのためにそのサーバー上で実行する場合などが該当します。

リモート

インストールを実行するシステムと更新される物理ノードは別のシステムです。ネットワーク経由で OA またはサーバーファームウェアをアップデートする場合などが該当します。

オンライン

通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。サーバーで Microsoft Windows Server 2012 が実行され、その環境でアップデートが行われる場合などが該当します。ファームウェアのアップデートのためにサーバーを起動して特別な環境に入れる必要はありません。ただし、ファームウェアをアクティブにするために、ノードを再起動しなければならない場合があります。

オフライン

オフラインモードでは、SUM は、小さな SuSE Linux Enterprise Server 12 起動カーネルを起動し、単一のサーバーで更新できるようにします。

- ローカルシステムの更新のみ。
- 単一ベースラインのみ使用。

オフラインモードでは、通常のローカルホストのオペレーティングシステムを必要とする一部の機能はサポートされません。

展開シナリオ

SUM は、SUM を実行するマシン (localhost) から 1 つ以上のリモートホストにアップデートを展開します。SUM を実行するホストが Windows を使用している場合、Windows、Linux、または VMware ノードを更新できます。SUM を実行するホストが Linux を使用している場合、Linux または VMware ノードを更新できます。また、リモートの ProLiant、Synergy、Edgeline、Moonshot System、および Superdome X Onboard Administrator を Windows または Linux システムからアップデートすることもできます。

SUM 展開シナリオ

ローカルホストでのグラフィカル展開

- コマンドラインツールを使い慣れていない。
- 単一のローカルホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、スクリプトは必要でない。

ローカルホストでのスクリプト展開

- コマンドラインツールを使い慣れている。
- 単一のローカルホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、カスタマイズされたスクリプト展開を実行する必要がある。

リモートホストへのグラフィカル展開

- コマンドラインツールを使い慣れていない。
- 単一または複数のリモートホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、スクリプトは必要でない。

リモートホストへのスクリプト展開

- コマンドラインツールを使い慣れている。
- 単一または複数のホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、単一または複数のホストシステムに、カスタマイズされたスクリプト展開を実行する必要がある。

SPP を使用した ProLiant サーバー用ファームウェアの展開

SPP には、HPE ProLiant サーバーおよびエンクロージャーシステム、ソフトウェア、およびファームウェアのコンポーネントが含まれています。

SUM は、サポートされている Windows、Linux、および VMware の各オペレーティングシステムにコンポーネントを展開します。単一の SPP イメージに、ドライバ、エージェント、ツール、ユーティリティを含む、ファームウェアコンポーネントとシステムソフトウェアコンポーネントの包括的な集合が含まれます。これらのコンポーネントは、単一ソリューションとして同時にテストされ、管理され、展開されます。

注記:

SUM は Linux ノードへの RPM コンポーネントの展開をサポートします。

各 SPP リリースには、SPP コンポーネントを展開するために使用できる SUM のバージョンが含まれています。SUM の最新バージョンは、SUM の Web サイト <http://www.hpe.com/servers/sum-download> からダウンロードできます。

SPP によってサポートされるシステムとソフトウェア、および SPP リリースで使用可能なアップデートの完全なリストについては、その SPP のリリースノート (<http://www.hpe.com/info/spp/documentation>) を参照してください。

SUM を使用した HPE Synergy への展開

SPP および SUM は、一部の HPE Synergy サーバーにアップデートを展開できます。SUM は、HPE Synergy フレームリンクモジュールにアップデートを展開できません。HPE OneView を使用してください。

ログファイルとディレクトリの場所の変更

SUM オンラインモードでのログファイルの収集

SUM は、内部プロセスおよびデバッグ情報を含む一連のデバッグログファイルを生成します。これらのログは、SUM の問題の確認に役立てることができます。ログファイルは、`/var/tmp/sum` ディレクトリ (Linux) および `%LOCALAPPDATA%\sum` ディレクトリ (Windows) に格納されます。SUM は、アップデートする機能およびノードごとにログファイルを作成します。

SUM は、`GatherLogs.bat` (Windows) または `Gatherlogs.sh` (Linux) という名前のユーティリティを備えており、すべてのログを使用して圧縮ファイル (Windows では `.zip`、Linux では `tar.gz`) を作成します。ログファイルを参照するために、このユーティリティを実行して 1 つのファイルにすべてのログを収集できます。

手順

1. SUM ディレクトリを開き、`gatherlogs.bat` (Windows) または `gatherlogs.sh` (Linux) を起動します。
2. 一時停止せずにログを実行する場合は、`gatherlogs -s` コマンドを使用します。

SUM のオフラインモードでのログファイルの収集

手順

1. オフラインモードで SPP または SUM を起動します。
2. コマンドプロンプトを **CTRL+ALT+D+B+G** キーを押して SUM GUI から起動します。
3. ログを保存するディレクトリを選択します。ログは、別のコンピューターで参照するために、リムーバブルメディアに保存できます。

SUM のログファイルの場所

SUM は、以下の場所にログファイルを格納します。

ユーザーログ

Windows ディレクトリ : `C:\cpqsystem\sum\log`

Linux ディレクトリ : `/var/tmp/sum/sum_8.0.0/`

デバッグログ

ローカルの Windows ディレクトリ : `%LOCALAPPDATA%\sum`

リモートの Windows ディレクトリ : `Admin$\Temp\sum`

Linux ディレクトリ : `/var/tmp/sum`

SUM バイナリのローカルコピー (必要な場合)

Windows ディレクトリ : `%LOCALAPPDATA%\localsum`

Linux ディレクトリ : `/var/tmp/localsum`

SUM がネットワークマウントされた共有または読み取り専用の場所から起動される場合に、SUM はバイナリのローカルコピーとサポートファイルを作成します。これにより、アップデート中の SUM の中断のないアクセスが可能になります。

リモートノードファイル

Windows ディレクトリ : `Admin$\temp\sum`

注記:

Linux システムで、上記の場所でログが見つからない場合は、ディレクトリ /var/cpq/Component.log を確認してください。

SUM ログの位置

- SUM のログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_log.txt
 - 指定された<ip>アドレスにあるノードの最高レベルのユーザーログ。
 - SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
 - 実行されたステップと、システムにインストールされているコンポーネントのサマリーが含まれます。
 - ノードのリターンコードが含まれます。
- SUM の詳細ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_detail_log.txt
 - IP アドレスにあるノードの詳細レベルのユーザーログ。
 - SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
 - ノード上で実行されている各コンポーネントからの完全な出力が含まれます。
 - 各コンポーネントとそのノードのリターンコードが含まれます。
- SUM のインストールの詳細ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/SUM_InstallDetails.xml
 - 最新インストールのユーザーの XML バージョンのステータス。
 - 全体的なステータスの詳細が含まれます。
 - インストールされている各コンポーネントについての詳細が含まれます。
- cpqsetup ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log\cpqsetup.log
 - Linux の場所 : /var/log/sum/Component.log
 - 各コンポーネントの自己検出と、展開されたインストールの詳細が含まれます。
- 個々のコンポーネントによって作成されたその他のログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log*.log
 - Linux の場所 : /var/cpq/*.log
 - Flash.debug.log
 - Verbose.log
 - Cpxxxxxx.log

GatherLogs

SUM では、すべてのログファイルを 1 つのファイルに収集するツールを提供しています。問題をトラブルシューティングする場合は、gatherlogs を実行します。このスクリプトは、SUM が格納されているディレクトリと同じディレクトリにあります。

/debug_log_dir パラメーターを使用して SUM を起動する場合は、gatherlogs を起動するときにこのパラメーターも指定してください。

sum.ini ファイルの使用

SUM は、起動後、一時ディレクトリに sum.ini ファイルを作成します。sum.ini ファイルは、SUM セッションの複数の設定を構成するプレーンテキストファイルです。sum.ini ファイルは SUM のあるディレクトリ内に保存または作成でき、一時ディレクトリ内のファイルの代わりにも使用されます。

デフォルト sum.ini ファイルの編集

手順

1. SUM の一時ディレクトリに移動します。一時ディレクトリのデフォルトの場所は/var/tmp/SUM (Linux) または%LOCALAPPDATA%\sum (Windows) です。

注記:

ディレクトリがない、または sum.ini ファイルがない場合、SUM を起動し、アプリケーションをシャットダウンして、デフォルトの sum.ini ファイルを作成します。

2. テキストエディターで、sum.ini ファイルを開きます。
3. 変更するパラメーターを編集します。
4. ファイルを保存します。
5. SUM を起動し、これらのパラメーターを使用できます。

詳しくは

[sum.ini ファイルのパラメーター\(19 ページ\)](#)

sum.ini ファイルの作成

SUM を起動する前に、sum.ini ファイルを作成し、使用するパラメーターを割り当てます。テキストエディターを使用してファイルを作成し、選択したディレクトリに保存します。

手順

1. テキストエディターを開いて、ドキュメントを作成します。
2. SUM で使用するパラメーターをドキュメントに入力します。
3. (オプション) /opt/sum/bin/sum.ini を作成して、SUM RPM (Linux のみ) のデフォルトの一時ディレクトリを上書きします。

詳しくは

[sum.ini ファイルのパラメーター\(19 ページ\)](#)

一時ディレクトリの変更

SUM を起動して一時ディレクトリを変更するには、次のコマンドを使用します。

手順

1. smartupdate /debuglogdir <log_path> /s と入力します。

sum.ini ファイルのパラメーター

ご使用の環境に基づいて、以下の SUM パラメーターを定義します。

[FTP]

```
port=disabled
```

[HTTP]

port=63001 : SUM は HTTP 接続を必要とするノードについて、このポートを使用します。また、SUM を起動するときに /port パラメーターを使用することができます。

ssl_port=63002 : 内部 SUM HTTPS サーバーに使用します。また、SUM を起動するときに /ssl_port パラメーターを使用することができます。

num_threads=200 : SUM で許可される HTTP/HTTPS 同時実行スレッド数。推奨される最小値はリモートノードごとに 4 スレッドです。

[Engine]

temp_dir=<path>

注記:

このパラメーターは、ログファイル、ノード、およびベースラインデータベースを保存する一時ディレクトリを変更するための 1 つの方法です。

mode=<release/debug> : デバッグパラメーターはログファイルに詳細情報を追加します。

[rpm]

nodeps=false/true> : SUM が iLO の依存関係を自動的にインストールするかどうかを判断します。true の場合、SUM は自動インストールを無効化します。

SUM の起動

Web ブラウザーのセキュリティ証明書について

SUM を GUI モードで起動すると、URL `localhost:63002` には潜在的なセキュリティリスクがあるという文が表示される可能性があります。エラーの文はブラウザによって異なります。

以下のことを実行できます。

- リスクがあっても続行するにはオプションを選択します。
- Web ブラウザーに Hewlett Packard Enterprise のセキュリティ証明書をインポートします。

Firefox へのセキュリティ証明書のインポート

手順

1. オプションを開き、**詳細 > 証明書 > 証明書を表示**を選択します。
2. **インポート**をクリックして、SUM ディレクトリ `assets\certificates` に移動します。CA.crt ファイルを選択します。
3. **Trust CA to identify websites** を選択します。
4. ブラウザーのキャッシュをクリアして、ブラウザを閉じます。
5. ブラウザーを起動します。

Google Chrome へのセキュリティ証明書のインポート

手順

1. Chrome の設定を開いてから、**詳細設定を表示**をクリックします。
2. **HTTPS/SSL** セクションで**証明書の管理**をクリックします。
3. **インポート**をクリックして、SUM ディレクトリ `assets\certificates` に移動します。CA.crt ファイルを選択します。証明書を**信頼されたルート証明機関**のストアに配置します。
4. ブラウザーのキャッシュをクリアして、ブラウザを閉じます。
5. ブラウザーを起動します。

Internet Explorer へのセキュリティ証明書のインポート

手順

1. **インターネットオプション**をクリックして**コンテンツ**を選択し、Internet Explorer のバージョンに応じて**証明書**または**View Certificates**を選択します。
2. **インポート**をクリックして、SUM ディレクトリ `assets\certificates` に移動します。CA.crt ファイルを選択します。証明書を**信頼されたルート証明機関**のストアに配置します。
3. ブラウザーのキャッシュをクリアして、ブラウザを閉じます。
4. ブラウザーを起動します。

SUM の起動

SUM をスタンドアロンアプリケーションとしてダウンロードした場合、ISO、zip、RPM にはソフトウェア、ドライバー、ファームウェアのコンポーネントは含まれません。コンポーネントは <http://www.hpe.com/jp> からダウンロードできます。SUM を SPP バンドルリリースの一部としてダウンロードした場合、コンポーネントの更新が含まれます。

iLO 仮想メディアなど、マウントされた ISO から SUM を起動する場合、SUM は SUM バイナリのローカルコピーを作成します (%LOCALAPPDATA%\localsum (Windows) または /var/tmp/localsum (Linux) ディレクトリ)。clean-cache コマンドでこれらのファイルは消去されないため、一時的なファイル localsum は手動で削除してください。SUM は、指定されたドライブにファイルをコピーすることを示すメッセージを表示します。ファイル共有ディレクトリで SUM を実行した場合、SUM はファイルをコピーする必要はありません。

注記:

Windows ノードで SUM を起動すると、CHIF ドライバーは自動的にインストールされます。CHIF ドライバーのインストールをスキップするには、/skip_prereqs パラメーターを使用します。CHIF ドライバーがなければ、SUM は iLO 5 ノードに接続できません。

Gen10 サーバーでは、CHIF ドライバーが必要です。Gen9 以前のサーバーでは SUM との通信に CHIF ドライバーは必須ではありませんが、CHIF ドライバーがあれば SUM はすべてのコンポーネントバージョンを判別できます。

Windows 2012 以降：システムをドメインに追加し、ドメイン管理者グループのユーザーを使用します。

❗ 重要:

SUM は複数のユーザーの同時ログインをサポートしません。更新しているすべてのノードに対して、すべてのユーザーが管理者権限（あるいは同等の権限）を持っていることが必要です。

SUM を起動するたびに、SUM は管理対象の各ノードの状態を判別します。これにより、SUM はセッションとセッションの間に発生した可能性がある変更を判別できます。

手順

1. SUM を保存したディレクトリに移動します。
2. 次のいずれかを実行します。

GUI モード

SUM を保存したディレクトリに移動します。ファイル共有ディレクトリで SUM を起動するには、SUMsmartupdate.bat (Windows) または smartupdate.sh (Linux) コマンドを入力します。

特定のデバッグディレクトリで起動するには、smartupdate /debuglogdir <debug_directory_path>を使用します。

テキストベースのコンソールモード（対話式 CLI）

SUM を保存したディレクトリに移動します。コマンドラインから、smartupdate およびコンソールパラメーターを入力します。パラメーターの完全なリストを表示するには、smartupdate -h (Linux) または smartupdate /h (Windows) と入力してください。

CLI モードと入力ファイルモード

SUM を保存したディレクトリに移動します。パラメーターの完全なリストを表示するには、smartupdate /s /h (Windows) または smartupdate -s -h (Linux) と入力してください。入力ファイルを使用する場合は、入力ファイルへのディレクトリパスを含めてください。CLI モードで SUM を使用方法の詳細については、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。

ISO から GUI モードで SUM を起動する

Windows または Linux オペレーティングシステム上で SUM を実行します。

注記:

Windows ノードで SUM を起動すると、CHIF ドライバーは自動的にインストールされます。CHIF ドライバーのインストールをスキップするには、`/skip_prereqs` パラメーターを使用します。

手順

1. ISO からローカルホストにファイルをコピーします。
 2. ISO を含むディレクトリから `launch_sum.bat` (Windows) または `launch_sum.sh` (Linux) を実行します。
-

注記:

Gnome 仮想ファイルシステムを使用する場合は、手動で ISO を抽出し、ディレクトリに保存します。その後で、SUM を起動します。

SUM と SPP ブート環境の変更

USB Key Utility では単一デバイスでのマルチブート設定がサポートされません (たとえば USB キー)。SUM および SPP ISO は、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。

RPM からの SUM の起動

手順

1. 任意のディレクトリから `smartupdate` と入力します。

PXE サーバーを使用した更新のインストール

以下に手順に従って、Linux システム上に PXE サーバーをセットアップします。

手順

1. 次のパッケージをインストールします。
 - a. `tftp-server`
 - b. `dhcp`
 - c. `httpd`
 - d. `syslinux`
2. ネットワーク上に DNS サーバーをセットアップします。DNS サーバーをセットアップすることは必須ではありませんが、推奨されます。
3. XINETD 内部で TFTP をアクティブにします。
 - a. Change

```
disable=yes

to

disable=no

in

/etc/xinet.d/tftp
```
 - b. Restart

```
XINETD
```
4. PXE サーバーを静的 IP を使用するようセットアップします。
 - a. `/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0.static` ファイルを作成します。
 - b. ファイルに次の内容を設定します。

```
DEVICE=eth0
BOOTPROTO=STATIC
ONBOOT=no
TYPE=Ethernet
IPADDR=<IP>
NETMASK=<IPMASK>
GATEWAY=<GATEWAYIP>
```

5. 次のように操作して、PXE ブート環境をセットアップします。
 - a. SPP ISO の /system ディレクトリから `initrd.img` および `vmlinuz` を PXE システムの /tftpboot ディレクトリにコピーします。
 - b. `pxelinux.0` (PXE ブート Linux カーネル) を /tftpboot ディレクトリにコピーします。
 - c. /tftpboot にコピーされたファイルのパーミッションが world readable であることを確認します。
6. PXELINUX を構成します。
 - a. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリを作成します。
 - b. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに、静的 IP アドレスの 16 進値を表すファイルを作成します。たとえば、使用される静的 IP アドレスが 192.168.0.254 の場合、16 進値は C0A800FE で、作成すべきファイルは次のようになります。
 - C
 - C0
 - C0A
 - C0A8
 - C0A80
 - C0A800
 - C0A800F
 - C0A800FE
 - c. ブート PXE ブートクライアントの NIC の MAC アドレスを表す容量ゼロのファイルを、 /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに touch コマンドを使用して作成します (先頭に「01」を付け、「:」の代わりに「-」を使用)。たとえば、NIC の MAC アドレスが 00:01:02:03:04:05 だとすると、ファイル名は 01-00-01-02-03-04-05 になります。
7. デフォルト pxelinux 構成を作成します。
 - a. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに default という名前のファイルを作成します。
 - b. default ファイルの内容を次のように設定します。

```
prompt 1
default Linux
timeout 100
label Linux
kernel vmlinuz
append initrd=initrd.img ramdisk_size=9216 noapic acpi=off
```
8. SPP ISO の内容全体を /tftpboot/SPP* という名前のディレクトリにコピーします。ここで、「*」は SPP のバージョンを意味します。
9. 次の内容を /ect/httpd/conf/httpd/conf に追加します。ここで「*」は SPP のバージョンを意味します。
10. <Directory /tftpboot/SPP*>.
11. Options Indexes

12. AllowOverride None
13. </Directory>
14. Alias /linux /tftpboot/SPP*
15. dhcpd および apache サービスを開始して、tftp をアクティブにします。
16. service dhcpd start
17. service xinetd restart
18. service httpd start
19. サーバーを PXE 経由で起動して、更新プロセスを開始します。

HPE Firmware Pack for ProLiant

Python スクリプトによる更新では、Firmware Pack for ProLiant リポジトリへのアクセスが必要です。下記のコマンドを使用する前に、SUM RPM をインストールしてください。リポジトリのセットアップについて詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SDR-FWPP> (英語) を参照してください。

smartupdate requires

コンポーネントに現在インストールされている PCI デバイスがリスト表示されます。

smartupdate list

システムに現在インストールされているファームウェアが表示されます。

smartupdate upgrade

ファームウェアパッケージのフラッシュエンジンが起動します。

smartupdate info

インストールされているファームウェアの詳細な説明です。

Firmware Pack for ProLiant リポジトリをセットアップしたら、次の手順でファームウェア RPM をダウンロードしてインストールしてください。

- Yum install \$(smartupdate requires)
- 該当する RPM をインストールするよう指示されたら、**Y** を押してください。
- RPM がインストールされた後で、次のように入力します。
- smartupdate upgrade
- システムのファームウェア更新のフラッシュを開始するよう指示されたら、**Y** を押してください。

詳しくは

[SUM RPM ツールについて\(119 ページ\)](#)

SPP ISO での SUM の異なるバージョンの使用

SPP でパッケージ化されたバージョンとは異なる SUM のバージョンを使用するには、SUM でカスタムベースラインの機能を使用します。SPP ISO の SUM ファイルを手動で交換すると、展開で問題が発生する可能性があります。

注記:

SUM は SPP 2016.10.0 以前のコンポーネントを使用するカスタムベースラインまたは ISO を作成できますが、SUM 8.0.0 より前の SUM バージョンを含めることはできません。

手順

1. 使用する SUM ISO のコピーをダウンロードして空のディレクトリに保存し、その ISO をマウントします。
2. SPP ISO のコピーをダウンロードして空のディレクトリに保存し、その ISO をマウントします。
3. SPP コンポーネントで使用する SUM のバージョンを開きます。

- マウントされた SPP (..\spp\packages) を SUM セッションに追加します。
- SPP コンポーネントを使用してカスタムベースラインを作成し、使用する SUM のバージョンを、カスタム ISO に含めるバージョンとして選択します。

詳しくは

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

[カスタムベースラインと ISO の作成\(35 ページ\)](#)

ファームウェア更新を許可するために BitLocker を無効にする (Windows のみ)

BitLocker サポートを一時的に無効にしてファームウェアアップデートを許可するには、以下の手順に従ってください。

手順

- スタートをクリックして、検索テキストボックスで `gpedit.msc` を探します。
- ローカルグループポリシーエディターが起動したら、ローカルコンピューターポリシーをクリックします。
- コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > BitLocker ドライブ暗号化の順にクリックします。
- BitLocker 設定が表示されたら、コントロールパネルセットアップ: 詳細なスタートアップオプションを有効にするをダブルクリックします。
- ダイアログボックスが表示されたら、無効をクリックします。
- すべてのウィンドウを閉じて、ファームウェアの更新を開始します。

詳細なスタートアップオプションを有効にするには、次の操作を行います。

- `cscript manage-bde.wsf -protectors -disable c:`と入力します。
- ファームウェアの更新プロセスが完了したら、手順 1~4 に従って BitLocker ドライブ暗号化サポートを有効な状態に戻せます。ただし、手順 5 では無効ではなく**有効**をクリックしてください。ファームウェアの展開完了後に BitLocker ドライブ暗号化を有効な状態に戻すために、次のコマンドを使用できます。
- `cscript manage-bde.wsf -protectors -enable c:`と入力します。

次の表では、発生する可能性がある TPM 検出シナリオについて説明します。

シナリオ	結果
TPM が検出され有効になっており、GUI モードで、システム ROM のアップデートが必要な場合	SUM が TPM を検出したことを示す警告メッセージが表示されます。SUM は、 警告を無視 にオプションを提供します。 警告を無視 を選択した場合のみ、アップデートを展開できます。
TPM が検出され有効になっており、CLI または入力ファイルモードで、 <code>/tpmbypass</code> スイッチが指定されておらず、ファームウェアがあればサーバーに適用する必要がある場合。GUI モードは <code>/tpmbypass</code> をサポートしていません。	警告メッセージは表示されません。新しいログファイル (<code>%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log</code>) が生成されます。インストールがサイレントモードで行われるため、インストールは終了し、次に進むことはできません。
TPM が検出されオプション ROM 計測が有効になっており、GUI モードで、システム ROM のアップデートが必要な場合	警告メッセージが表示されます。 OK を選択すると、次に進めます。インストールは取り消されません。

表は続く

シナリオ	結果
TPM が検出されオプション ROM 計測が有効になっており、CLI または入力ファイルモードで、/tpmbypass スイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバーに適用する必要がある場合	警告メッセージは表示されません。新しいログファイル (%systemdrive%\cpqssystem\log\cpqstsub.log) が生成されます。インストールがサイレントモードで行われるため、インストールは終了し、次に進むことはできません。
TPM が検出され有効になっており、CLI または入力ファイルモードを使用しており、インストールが行われ、/tpmbypass スイッチが指定されている場合。	インストールは行われます。

SUM の GUI の展開画面で、TPM を無効にできます。また、CLI または対話式 CLI モードで TPM を無効にすることもできます。

SUM と BitLocker の併用について

TPM は、BitLocker とともに使用する場合、システム状態を測定します。TPM は、ROM イメージの変更を検出すると、ユーザーがリカバリキーを提供できない場合、Windows ファイルシステムへのアクセスを制限します。SUM は、TPM がノード上で有効になっているかどうかを検出します。ProLiant サーバーの一部の新しいモデルでは、ご使用のシステムで TPM が検出された場合やターゲットとして選択されたリモートサーバーで TPM が検出された場合に、iLO、HDD、NIC、PowerPIC、および BIOS 用の SUM ユーティリティがフラッシュに先立ってユーザーに警告を行います。ユーザーが一時的に BitLocker を無効にしない場合やフラッシュをキャンセルしない場合、再起動後ユーザーデータにアクセスするには、BitLocker のリカバリキーが必要になります。

リカバリイベントは、次の状況で発生します。

- Microsoft BitLocker ドライブ暗号化を使用している環境で、システム BIOS のフラッシュの前に BitLocker を一時的に無効にしていない。
- iLO、Smart アレイ、および NIC ファームウェアの判定をオプションで選択している。

SUM が TPM を検出すると、メッセージが表示されます。

各サーバーで TPM パスワードを入力することなくファームウェアを更新できるようにするには、BitLocker ドライブ暗号化を一時的に無効にします。BitLocker ドライブ暗号化を無効にしてもハードディスクドライブデータの暗号化は解除されません。ただし、BitLocker はハードディスクドライブに保存されているプレーンテキストの復号キーを使用して情報を読み取ります。BitLocker ドライブ暗号化は、ファームウェアの更新完了後に有効な状態に戻します。BitLocker ドライブ暗号化を有効な状態に戻すと、プレーンテキストキーが削除され、BitLocker によってドライブが保護されます。

△ 注意:

BitLocker ドライブ暗号化を一時的に無効にするとドライブのセキュリティが脅かされる可能性があります。このため、安全な環境以外では無効化を試みないでください。安全な環境を用意できないのであれば、ファームウェアのアップデートプロセス全体にわたって、ブートパスワードを用意し、BitLocker ドライブ暗号化をそのまま有効にしておくことをおすすめします。この場合、SUM に対して /tpmbypass パラメーターを設定する必要があります。そうしないと、ファームウェアのアップデートはブロックされます。

リモートノードでの Linux の root 認証情報

root 認証情報を提供するか、sudo 権限のあるユーザーを提供するか、リモートノードで root 以外の認証情報と root 認証情報を提供することができます。

Linux の sudo 認証情報を使用するための前提条件

- 次のいずれかを指定します。
 - ユーザー名とパスワード
 - ユーザー名と SSH キーのファイルパス (PEM 形式)
- sudo ユーザーに /tmp ディレクトリへの書き込みアクセスを提供します。
- sudo ユーザーについては、/etc/sudoers ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限と指定値を示します。
 - ユーザー : root
権限 : ALL=ALL
仕様 ALL
 - ユーザー : Sudo_user
権限 : ALL
仕様 ALL
- sudo コマンドの実行時にシステムが root ユーザーのパスワードではなく sudo ユーザーのパスワードを求めると、/etc/sudoers ファイルのエントリを編集します。
- 以下に、/etc/sudoers でコメント化または削除する権限を示します。
 - ユーザー : ALL
権限 : ALL
仕様 ALL

注記:

このオプションは必ずすべてのシステム上でデフォルトの targetpw を指定して使用してください。

- スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべての root 特権を持つスーパーユーザーとして構成します。また、root ユーザーとともに root 以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートすることもできます。
- ログイン認証情報の SSH キーを sudo と組み合わせる際には、システムがユーザーパスワードを要求しないように、/etc/sudoers ファイルのエントリを次のように編集します。
 - ユーザー : sudo_user
権限 : ALL
仕様 NOPASSWD:ALL

root 認証情報での SSH キーファイルの使用

SUM では、パスワードを使用するか、SSH キーを指定することでログインできます。

手順

1. SUM を実行しているノードで、ssh-keygen -t rsa と入力します。SUM は、DSA 暗号化キー形式もサポートします。DSA 暗号化キーを作成するには、ssh-keygen -t dsa と入力します。パスワードはオプションです。
2. .ssh/id_rsa.pub ディレクトリ内にキーを保存します。root ユーザーの場合は、/root/.ssh ディレクトリを使用します。
3. キーを開き、次のテキストがあるかキーの最上部を調べて、プライベートキーが PEM 形式であることを確認します。

```
----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
```

4. 必要に応じて、更新したいノードで、ルートレベルに `.ssh` ディレクトリを作成します。ディレクトリでの権限レベルを 700 に設定します。
5. 更新したいノードに `.ssh/authorized_keys` ファイルがあるかどうかを確認します。このファイルが存在しない場合は、このファイルを作成または追加します。 `authorized_keys` ファイルに対する権限を 640 に設定します。

注記:

ファイルを追加すれば、より多くのユーザーがプライベートキーの使用を承認されます。

6. ホストノード上の `.ssh/id_rsa.pub` の内容をコピーし、リモートノード上のファイル名 `.ssh/authorized_keys` 内に貼り付けます。
7. ホストノードと、更新するノードの間の SSH パスを開きます。
 - a. `ssh root@10.0.0.1` と入力します。このパラメーターにより、シェルのパスが開きます。
 - b. `ssh root@10.0.0.1 uname` と入力します。このパラメーターにより、コマンドが実行され結果が戻されます。
8. SUM には、 `id_rsa` (プライベートキーファイル) へのアクセスと、オプションのパスフレーズが必要です。

注記:

その他のアプリケーションで PEM 形式のパブリックキーが必要な場合は、 `ssh keygen-e-f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem` と入力して変換できます。キーを開き、 `---BEGIN SSH2 PUBLIC KEY---` がある PEM 形式であることを確認します。

Windows システムでプライベートキーを作成するには、PuTTY や PuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルを PEM 形式にエクスポートするには、 **Conversion > Export OpenSSH key** を選択します。

SUM へのログイン

手順

1. SUM がすでに実行されている場合、現在のユーザー認証情報を使用します。

SUM の終了

SUM GUI のログアウト

手順

1. ユーザーアイコンをクリックし、ログアウトをクリックします。
2. 次のいずれかを選択します。
 - ログオフ - 現在のユーザー。
 - シャットダウン - このオプションは、SUM エンジンを実行してシャットダウンします。
3. OK をクリックします。

SUM をシャットダウンせずにブラウザウィンドウを閉じる場合、SUM エンジンはバックグラウンドで実行し続けます。エンジンをシャットダウンするための対話式 CLI コマンドを発行します。

- SUM アプリケーションを格納するディレクトリに移動します。
- コマンドラインから、`smartupdate shutdownengine` と入力します。

SUM キャッシュのクリア

SUM は、ノードのユーザー認証情報などのノード情報をセッション間で、データベースファイルに保存します。`clean-cache` は、データベース情報を削除します。このコマンドでは、ログディレクトリまたはファイルは削除されません。

手順

1. SUM エンジンを実行してシャットダウンします。
2. コマンドラインウィンドウから、SUM があるディレクトリに移動します。
3. `clean-cache.bat` (Windows) または `clean-cache.sh` (Linux) と入力します。

注記:

GUI を使用している場合は、SUM があるディレクトリに移動して、`clean-cache` を実行するとそのキャッシュをクリアできます。`clean-cache` コマンドを実行すると、SUM に入力されているノードやベースラインなどの情報がすべて消去されます。

SUM GUI の使用

SUM のホーム画面

SUM を起動すると、GUI にホーム画面が表示されます。この画面から、ローカルホストガイドアップデート、ベースラインライブラリ、またはノードをクリックできます。その他の画面に移動するには、左上隅のナビゲーションメニューを使用します。

SUM のアクティビティ画面

アクティビティ画面は、SUM が実行中の処理や最近実行した処理のリストを示します。表に、SUM によって実行される処理に関連するソースとメッセージが表示されます。この画面を表示している間、画面は更新されません。最新のアクティビティステータスを表示する場合は、**更新**をクリックします。

SUM のローカルホストガイドアップデート

ローカルホストガイドアップデート機能を使用して、SUM を実行しているローカルホストを更新します。ベースラインライブラリに追加したベースラインを使用できます。ベースラインを指定しない場合、SUM は SUM の実行元ディレクトリにあるアップデートを使用します。アップデートを展開する前にコンポーネントを構成する場合は、ローカルホストガイドアップデートを実行する前にベースラインライブラリから構成変更を行います。

ローカルホストガイドアップデートの各モード

- **対話式**：デフォルトのベースラインまたは他のベースラインを使用してローカルホストが更新されます。SUM がローカルホストに適用するアップデートは、ユーザーが選択できます。
- **自動**：SUM は、ローカルホストを自動的に更新し、デフォルトのベースラインまたは選択したその他のベースラインを使用します。OK をクリックすると、SUM がノードのアップデートを開始します。

対話式モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用

手順

1. ナビゲーションメニューのローカルホストガイドアップデートをクリックします。
2. **対話式**を選択します。
3. SUM は、ローカルホスト用に選択された現在のベースラインを表示します。
 - a. 現在選択されているベースラインを使用する場合は、次の手順に移ります。
 - b. 別のベースラインを使用する場合は、ベースラインの横にある **X** をクリックします。**異なるベースラインの割り当て**を選択して、別のベースラインまたは**追加のパッケージ**を追加します。
4. **OK** をクリックします。SUM が、ベースラインとローカルホストのインベントリの作成を開始します。
5. SUM がインベントリを終了したら**次へ**をクリックします。
6. 展開できる推奨アップデートは青色でハイライトされ、**準備完了**列に緑のアイコンが表示されます。コンポーネントの**準備完了**欄に赤色のボタンがある場合、SUM がそのコンポーネントを展開する前に、解決しなければならない依存関係があります。先に残りのアップデートを展開し、このアップデートの実行は後に回す場合は、この項目の選択を解除します。
7. **Deploy all updates** を選択した場合は、SUM が再起動を開始するまでの待機時間を選択します。
8. **展開**をクリックします。

注記:

最新ではない項目、またはオプションである項目はハイライトされません。これらのアップデートを展開する場合は、**選択**をクリックします。すべてのコンポーネントを全体的に選択して再書き込みまたはダウングレードする場合は、**アクション > アドバンスドオプション**を選択して**再書き込み**および**ダウングレードオプション**を選択し、**再起動オプション**を選びます。コンポーネントの詳細を表示するには、アップデートをダブルクリックします。新しいアップデートの情報を表示する場合は、ハイパーリンクをクリックします。

9. SUM は、アップデートを展開する前にコンポーネントの分析を実行します。

10. インストールログファイルを確認します。

注記:

オフラインモードで SUM がアップデートの展開に失敗した場合、**再起動**をクリックして SUM を終了し、ホストオペレーティングシステムにノードを再起動します。

iLO タスクキューのアップデートを展開するか、iLO レポジトリのインストールセットを保存することができます。SUM では、LocalGuide Update 機能から iLO レポジトリ上のインストールセットを削除することはサポートされていません。

詳しくは

[ノードの展開\(50 ページ\)](#)

自動モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用

手順

1. ナビゲーションメニューのローカルホストガイドアップデートをクリックします。
2. **自動**をクリックします。
3. SUM は、ローカルホスト用に選択された現在のベースラインを表示します。
 - a. 現在選択されているベースラインを使用する場合は、次の手順に移ります。
 - b. 別のベースラインを使用する場合は、ベースラインの横にある **X** をクリックします。**異なるベースラインの割り当て**を選択して、別のベースラインまたは**追加のパッケージ**を追加します。
4. **OK** をクリックします。

注記:

OK をクリックすると、SUM がアップデートの展開を開始します。ローカルホストガイドアップデート機能の自動モードでは、SUM アップデートを中断することはできません。自動モードでは、SNMP および WBEM Provider コンポーネントはインストールできません。SUM これらのコンポーネントをインストールする場合は、対話モードを使用してください。

SUM のベースラインライブラリ画面

ベースラインライブラリ画面には、ノードのアップデートに使用するベースラインと追加パッケージが表示されます。ベースラインには、SPP、または他のベースラインや追加パッケージから選択するアップデートを含むカスタムベースラインが含まれます。追加パッケージとは、Hot Fix などの名前付きアップデートパッケージに含まれないアップデートを保持するディレクトリです。SUM は、セッション間のベースライン情報を保存しています。

追加された各ベースラインが左のパネルに表示されます。ベースラインを選択すると、ベースラインと追加パッケージごとに以下の情報が表示されます。

- 言語
- オペレーティングシステム
- 機能強化

- コンポーネント – 検索パラメーターに一致するアップデートを検索する検索ボックスがあります。ファイル名、説明、およびアップデートの種類を検索できます。詳細を表示するにはアップデートをダブルクリックします。
- コンポーネントエラー – 署名ファイルが含まれていないコンポーネント。
- コンポーネント警告 – ベースラインのマニフェストにリストされているコンポーネントが表示されますが、そのコンポーネントは存在しません。
- コンポーネントの構成 – アップデートを展開する前にいくつかのコンポーネントを構成する必要があります。

注記:

カスタム ISO を作成した場合、SUM がファイルを検出できるように ISO をシステムにマウントしてから、そのディレクトリをベースラインとして追加する必要があります。

詳しくは

[コンポーネント構成\(40 ページ\)](#)

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

SUM ベースラインについて

ベースラインは、SUM でローカルおよびリモートのノードに適用できるアップデートコンポーネントが含まれるディレクトリです。一部のベースラインを次に示します。

- SPP
- カスタム SPP のダウンロード
- メンテナンスサブリメントバンドル
- SUM で作成されたカスタムベースライン/ISO

ベースラインを追加すると、SUM は、以下のファイルを検索します。

- bpxxxx.xml ファイル：ベースライン内の名前、バージョン、履歴、およびコンポーネントが含まれます。SUM は、bpxxxx.xml ファイルに含まれない、ディレクトリ内のすべてのコンポーネントを、メインベースラインではなく追加パッケージとして扱います。SPP、メンテナンスサブリメントバンドル、およびカスタムベースラインには、bpxxxx.xml ファイルが含まれます。
- ..\..\manifest ディレクトリ：このディレクトリには、ベースラインに含まれている一部のコンポーネントについての詳細が含まれています。SPP とカスタムベースラインには、データがあらかじめ入力されているデータベースが含まれます。マニフェストディレクトリには、以下が含まれます。
 - meta.xml：コンポーネントの XML ファイルデータのほとんどが含まれています。
 - primary.xml：ベースライン内の RPM についての詳細が含まれています。
 - system.xml：ROM ファミリーとシステムモデルの間のマッピングについての情報が含まれています。
 - revision_history.xml：コンポーネントの履歴情報が含まれています。
- \db\BaselineDB.pdb：これは、データがあらかじめ入力されているデータベースであり、他のベースラインからの他のデータベースが存在しない場合、SUM はこのデータベースを使用します。このファイルには、ベースラインが生成されたときのコンポーネントのすべての詳細が含まれています。SPP とカスタムベースラインには、データがあらかじめ入力されているデータベースが含まれます。

SUM は、ベースラインからデータを読み取るときに、次の優先順位を使用します。

- データがあらかじめ入力されているデータベース：データがあらかじめ入力されているデータベースを使用すると、SUM はベースラインのインベントリを最も迅速に完了することができます。
- マニフェストファイル：SUM はマニフェストファイルを使用して、各コンポーネントを開くよりも速くベースラインのインベントリを完了します。
- 各コンポーネントの読み取り。各コンポーネントには、コンポーネントについての詳細が含まれる xml ファイル (cpxxxx.xml) が組み込まれています。コンポーネントについての詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

- Windows : コンポーネントを起動した後、**Extract** を選択します。
- Linux scexe : コマンドラインで `./CPxxxxx.scexe --unpack=<dir>` と入力します。
- Linux RPM : コマンドラインで `rpm -qp --scripts <rpm_name>` と入力します。コンポーネントの xml が出力に組み込まれています。
- VMware zip : zip ファイルを解凍します。

詳しくは

[コンポーネント構成\(40 ページ\)](#)

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

ベースラインの追加

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、**ベースラインの追加**をクリックします。

注記:

ベースラインの追加画面をクリアしたい場合は、**最初からやり直す**をクリックします。

ベースラインを追加するための画面が開きます。

2. **ベースラインの追加**または**カスタムを作成**を選択します。
3. 追加するベースラインのタイプを選択し、必要な情報を含めます。

SUM サーバースパスを参照

SUM を実行しているシステムがアクセスできるディレクトリまたはファイル共有です。

ベースラインへのディレクトリパスを入力するか、**一覧**をクリックし、メニューを使用してディレクトリに移動します。

注記:

SPP を追加している場合は、`/packages` ディレクトリに移動します。

UNC パス (例 : \\host\dir)

システムがアクセスできる UNC パスを使用します。**ベースラインの URI** を入力フィールドに、ソースベースラインの UNC アドレスを入力します。ユーザー名とパスワードを入力します。

注記:

UNC パスは、Windows システムのみでサポートされています。

SUM では、マッピングされた UNC ドライブをサポートしていません。

http 共有からダウンロード

ディレクトリパスを入力 : ベースラインを保存するディレクトリを入力するか、そのディレクトリに移動します。必要な場合、ディレクトリを作成します。

HTTP URL を入力 : バンドルファイルが保存されている HTTP URL を入力します。サーバーは、ローカルでもリモートでも構いません。また、Apache、Tomcat、または IIS サーバーを使用できます。バンドル XML を含む、完全な URL を入力してください。コンポーネントは、バンドル XML と同じディレクトリに存在する必要があります。ベースラインのために十分なローカルの空き容量があることを確認します。

特定のオペレーティングシステム用のコンポーネントをダウンロードする場合は、**OS フィルターオプション**で、オペレーティングシステムを選択します。

注記:

SUM は、ディレクトリ内で見つかったすべてのベースラインを追加します。

4. 追加をクリックします。

ベースラインのステータスを確認するには、アクティビティログを確かめます。ベースラインリストにベースラインが表示されない場合は、ディレクトリにアップデートが存在するかどうかを確認してください。

注記:

ベースラインの追加を完了するとすぐに、SUM がベースラインのインベントリを開始します。別のベースラインを追加する場合は、ベースラインのインベントリが完了するまで待ってから作業を開始します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

カスタムベースラインと ISO の作成

カスタムベースラインを作成すると、以下を実行できるようになります。

- SPP リリースから特定のアップデートを展開する。
 - ベースラインまたは ISO のサイズを最小限に抑える。
 - 環境に展開するアップデートを標準化する。
-

注記:

カスタムのブート可能 ISO を作成する前に、解凍された ISO がローカルディレクトリで利用可能であることを確認します。SUM はブート環境のソースとして ISO を使用します。たとえば、最新の SPP ISO です。1 つのディレクトリに解凍する ISO は、1 つだけにしてください。

SPP のカスタムダウンロード Web サイト (<https://www.hpe.com/servers/spp/custom/>) で、カスタム SPP を作成してダウンロードできます。

始める前に

- ベースラインライブラリ画面に、ベースラインとしてアップデートを含むディレクトリを追加します。
- SUM の外部に、カスタムベースラインまたは ISO を保存するディレクトリを作成します。
- 各ベースラインディレクトリには、必ず、ベースラインを 1 つだけ含んでください。たとえば、SPP ISO とホットフィックスを同じディレクトリに入れしないでください。

手順

1. **+追加**をクリックして、**カスタムを作成**を選択します。
2. **説明**テキストボックスに、ベースラインの説明を入力します。説明は、最大 50 文字まで入力できます。
3. **バージョン**で日付を選択し、1 文字または 2 文字の識別子（例：1、1a など）を入力します。
ベースラインの名前は、説明とバージョンを組み合わせて自動生成されます。
4. **ターゲットの位置**フィールドの**一覧**をクリックして、ベースラインの保存先となるからのディレクトリに移動します。SUM では、空ではないディレクトリは使用できません。
5. カスタムのベースラインを使用してブート可能な ISO を作成する場合は、**ブート可能な ISO ファイルの作成**を選択します。

カスタムのブート可能 ISO を作成するには、ローカルディレクトリにブート可能な SPP または SUM ISO が抽出されている必要があります。

解凍したソース ISO の位置フィールドで、**一覧**をクリックして、SUM が解凍済みのブート可能 ISO を検出できるルートディレクトリを選択します。例：

C:\SUM\Baselines\spp_july2017

注記:

1つのディレクトリに保存するブート可能 ISO は1つだけにしてください。

6. **SUM のパスを選択**で、次のいずれかを選択します。

現在の作業ディレクトリ

現在使用している SUM のバージョンをコピーします。

カスタムディレクトリ

別のディレクトリから SUM のバージョンをコピーします。

SUM を含めないでください

SUM のコピーをベースラインに含めません。

SUM パスフィールドで、ディレクトリのパスを入力するか、**一覧**をクリックして、使用する SUM のバージョンを含むディレクトリを選択します。

注記:

ブート可能な ISO を選択した場合、**含めないでください**は**解凍したソース ISO の位置**と置き換えられ、SUM の ISO の位置が表示されます。

7. **ベースラインソースセクション**で、カスタムベースラインに追加するコンポーネントを含むベースラインを選択します。
-

注記:

同じコンポーネントが複数のソースベースラインに含まれていると、SUM はそのコンポーネントを重複して一覧に表示します。複数のベースラインから同じコンポーネントを選択した場合、SUM はそのコンポーネントを重複して表示しますが、ベースラインに取り込まれるコンポーネントファイルのコピーは1つだけです。

8. **フィルターセクション**で、次の操作を行います。

- a. エンクロージャーファームウェア管理機能のベースラインを作成するかどうかを選択します。
- b. **CloudSystem Matrix バージョンの一致**で、カスタムベースラインを、CloudSystem Matrix のバージョンと一致させるかどうかを選択します。ローカルシステムに保存された MatrixConfig.xml ファイルを使用するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、**アドバンスドフィルター**が非アクティブになり、他のフィルターは無効になります。

CloudSystem Matrix バージョンの一致を選択した場合は、次の操作を行います。

- I. カスタムベースラインをローカルシステム上のマトリックス定義 XML ファイルと比較するかどうかを選択します。最新のマトリックス定義は、<http://www.hpe.com/info/matrixcompatibility> からダウンロードできます。
- SUM では、ベースラインの hpe.com 上のマトリックス定義 XML ファイルとの比較がサポートされなくなりました。
- II. Matrix Definition ファイルのディレクトリを入力します。
- c. **目的のコンポーネントのタイプ**を選択し、**ファームウェア**、**ソフトウェア**、または**ファームウェアおよびソフトウェア**を選択します。

注記:

ファームウェアまたはソフトウェアのアップデートのみでのベースラインを作成する場合、これらのオプションのいずれかを選択します。ファームウェアまたはソフトウェアのアップデートのみでベースラインを使用すると、ノードのファームウェアまたはソフトウェアのみが自動的に更新されます。

- d. ベースラインに含める、アップデートの種類を選択します。

クリティカルアップデート

ただちに展開する必要があるアップデート。

推奨されるアップデート

できるだけ早く展開することが推奨されるアップデート。

オプションアップデート

本バージョンへのアップデート。システムがドキュメントに示されている問題修正の影響を受ける場合や、このバージョンが提供する拡張機能を利用する場合に選択します。

アドバンスドフィルター

ベースラインに適用する場合は、このフィルターを選択します。

フィルターカテゴリ	オプション
アーキテクチャー	ベースラインに含めるシステムアーキテクチャーを選択します。
オペレーティングシステム	ベースラインに含めるオペレーティングシステムを選択します。オプションのリストは、ソースベースラインで提供されます。カスタムベースラインでサポートするのは、SPP ベースラインソースからのベースラインの作成だけです。ブート可能 ISO を作成するには、すべての Linux オペレーティングシステムを選択して、展開できるすべてのドライバーを含めます。
エンクロージャー	使用している環境用のエンクロージャーオプションを選択します。
コンポーネントカテゴリ	展開できるタイプアップデートです。
サーバーモデル	ベースラインに含めるサーバーデバイスコンポーネントを選択します。オプションのリストは、ソースベースラインで提供されます。

注記:

SUM は、SPP ソースベースラインでサポートされているノードタイプでベースラインの作成をサポートします。

9. **フィルターを適用**をクリックします。使用できるアップデートのリストが表示されます。
10. ベースラインに含める個々のコンポーネントアップデートを選択します。リスト内の特定のアップデートを検索するには、検索機能を使用します。
11. **ISO の作成およびベースラインの保存**または**ベースラインの保存**をクリックして、ベースラインを作成します。ユーザーがさらに別のカスタムベースラインを作成する場合にも対応できるように、**ISO の作成およびベースラインの保存**または**ベースラインの保存**をクリックしても、カスタムベースラインの作成画面は閉じません。

注記:

ブート可能なカスタム ISO を作成するには、Linux ホスト上にアプリケーション `xorriso` (UEFI) をインストールします。

12. **閉じる**をクリックしてカスタムベースラインの作成画面を閉じます。

SUM は、カスタムのベースラインコンポーネントの詳細情報を XML ファイルで保存します。SUM はこの XML ファイルを読み取り、ディレクトリ内のコンテンツのリストと比較します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

ベースラインレポートの生成

手順

1. ベースラインライブラリ画面から、インベントリレポートを生成できます。これは、ノード画面で生成できるものと同じインベントリレポートです。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

[ノードレポートの生成](#)(54 ページ)

ベースラインの検証

SUM は、次のソースに対してベースラインを検証できます。

- **バンドルファイル** - バンドル、たとえば SPP に対して検証を実行することができます。Web から SPP を取得した後や、システム間でバンドルをコピーした後で、この機能を使用できます。
SPP または MSB が公開された後でも、コンポーネントが公開されていない場合、コンポーネントは Web から取り出されません。SUM は、バンドルを検証するときに、不足しているコンポーネントがあることを示すメッセージを表示します。Hewlett Packard Enterprise Web サイトでコンポーネントを調べて、ダウンロード可能であるかどうかを確認できます。
- **CloudSystem Matrix ファイル** - カスタムベースラインが CloudSystem Matrix のダウンロードされたバージョンと一致することを確認することができます。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/matrixcompatibility> を参照してください。

SUM は、hpe.com での CloudSystem Matrix ファイルに対するベースラインの検証をサポートしなくなりました。

ベースラインが CloudSystem Matrix 構成ファイルと一致することが確認された後で、ベースラインを使用してノードのインベントリを実行し、ノードが構成と一致することを確認できます。ノードのインベントリにより、ベースラインがインストール済みバージョンと正確に一致するかどうか、またはノードを更新して CloudSystem Matrix の構成と一致させる必要があるかどうか報告されます。インベントリでは、インストールされているコンポーネントが HPE Helion CloudSystem 構成ファイルよりも新しいバージョンかどうか報告されます。

注記:

SUM は、hpe.com での CloudSystem Matrix ファイルに対するベースラインの検証をサポートしなくなりました。

手順

1. ベースラインライブラリ画面でベースラインを選択して、**アクション** > **検証**の順に選択します。

- ベースラインとベースラインバンドルファイルの場所が表示されます。
2. ご使用のローカルシステム上で、検証のタイプ、バンドルファイルの検証、または **CloudSystem Matrix** バージョンの検証を選択します。
 - a. **Matrix 定義 XML ファイル**で最新の **MatrixConfig.xml**（ローカル）を選択します。
 - b. Matrix XML ファイルへのパスを入力するか選択します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

ベースラインコンポーネントの再検証

ベースラインのインベントリにコンポーネントエラーが表示され、そのエラーを修正した場合、ベースラインをもう一度検証することができます。

手順

1. ベースラインをベースラインライブラリに追加します。
2. ベースライン上でインベントリを実行します。
3. **すべて再検証**をクリックします。

SUM はコンポーネントが有効かどうかを確認します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

[SUM がコンポーネントを検証しない](#)(65 ページ)

ベースラインの削除

ベースラインを削除する前に、選択したベースラインを使用している各ノードに別のベースラインを割り当ててください。ベースライン画面に、各ベースラインを使用しているノードの数が示されます。ハイパーリンクをクリックして、ベースラインを使用しているノードを表示してください。

手順

1. ベースライン画面で、ベースラインを選択します。
2. **アクション > 削除**の順に選択します。

注記:

削除するベースラインが1つ以上のノードに関連付けられている場合、SUM はノードのリストを表示します。ノードを編集して関連付けられているベースラインを変更するか、またはノードを削除します。

3. ベースラインの削除を確認します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

[ノードの編集](#)(49 ページ)

[ノードの削除](#)(55 ページ)

ベースラインの追加またはインベントリのキャンセル

SUM では、ベースラインの追加またはインベントリをキャンセルできません。手順が終了するまで待つから、ベースラインを削除します。

詳しくは

[コンポーネント構成\(40 ページ\)](#)

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

コンポーネント構成

一部のコンポーネントでは、必須またはオプションの構成を行います。構成パラメーターには、コンポーネントを正しく構成するために必要な情報や、コンポーネントでソフトウェアをインストールするために必要なパスワードも含まれます。ベースラインライブラリ画面で、コンポーネントオプション、インポートオプション、およびエクスポートオプションを変更します。

入力ファイルを使用する場合も、コンポーネントの構成を行えます。入力ファイルについて詳しくは、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。構成ディレクトリをベースラインにコピーし、そのベースラインを SUM セッションに追加すると、SUM はインベントリプロセス時にその構成設定をインポートします。

以下の場合にコンポーネント設定を再構成する必要があります。

- `clean-cache` ユーティリティを実行した。
- コンポーネントをローカルホストで構成し、SUM で設定した後にその構成をベースラインディレクトリにエクスポートしない場合は、コンポーネントファイルをリモートサーバーにコピーします。

詳しくは

[コンポーネント構成\(40 ページ\)](#)

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

コンポーネントの構成

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**修正**を選択し、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成の状態**を選択します。
2. 構成する各コンポーネントに対して**構成可能**または**構成済み**を選択します。

注記:

構成済みが表示されるコンポーネントでは、デフォルト構成設定が変更されています。

3. 構成設定を入力し、**SUM に保存**をクリックして、現在の SUM データベースにコンポーネント設定を保存します。

構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

注記:

構成オプションはコンポーネントによって異なります。

詳しくは

[コンポーネント構成\(40 ページ\)](#)

[ベースラインの追加\(34 ページ\)](#)

構成済みコンポーネントのエクスポート

コンポーネントを構成し、選択した場所にコンポーネント構成をエクスポートします。エクスポート後、これらの構成設定を別の SUM セッションにインポートできます。また、コンポーネントを SUM の外部に展開する場合やリモートノード上の SUM を使用して展開する際に、エクスポートされたこれらの構成パラメーターを使用してコンポーネントを構成することもできます。これにより、コンポーネントを 1 回構成するだけで、その構成を再利用できるようになります。

エクスポートされた構成ファイルまたはスクリプトは、<コンポーネントファイル名>_conf という名前のディレクトリに保存されます。ディレクトリには、構成ファイルまたはスクリプト、ならびに SUM の外部で構成を使用してコンポーネントを展開する方法に関する手順を含む README ファイルが含まれています。SUM は、構成ファイルまたはスクリプトをコンポーネントとは別の位置に保存して、コンポーネントのセキュリティ署名の破壊を防止します。

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**コンポーネント**をクリックし、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成**または**構成済み**をクリックします。
2. 構成する各コンポーネントに対して**構成可能**を選択し、構成設定を入力します。

注記:

構成オプションはコンポーネントによって異なります。

3. **保存してエクスポート**をクリックし、コンポーネント構成を保存するディレクトリを選択します。構成ファイルにユーザー認証情報を含めるかどうかを選択します。SUM は、エクスポートされたコンポーネントに基づく名前のディレクトリを作成します。この名前は、<コンポーネント名>_conf です。アクティビティ画面には、構成ファイルが保存されたアドレスが表示されます。
4. SUM には、スタンドアロンモードでコンポーネントを展開する方法に関する手順を提供する README ファイルが含まれています。

❗ 重要:

SUM は、ユーザー認証情報も含む構成設定を、コンポーネントが使用できるプレーンテキストファイル形式で保存します。

5. **保存**をクリックします。構成データは、SUM のデータベースに保存され、適切なファイルに書き込まれます。
6. 構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

コンポーネント構成設定のインポート

コンポーネントを SUM の別のセッション、または別のサーバーからコピーしたベースラインで構成した場合は、GUI にこれらの設定をインポートできます。

注記:

ベースラインと同じディレクトリにベースライン構成ディレクトリを保存した場合、SUM は、ベースラインライブラリにベースラインが追加されるときに自動的に構成設定をインポートします。

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**修正**を選択し、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成**をクリックします。
2. コンポーネントのリストを下にスクロールし、各コンポーネント構成ファイルに対して**構成可能**を選択します。
3. **インポート**をクリックします。
4. 構成ファイルを保存したディレクトリを選択し、**開く**をクリックします。

❗ **重要:**

SUM は、インポートされた構成データを自動で保存する際に、既存のコンポーネント構成を上書きします。

5. 構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

詳しくは

[コンポーネント構成](#)(40 ページ)

[ベースラインの追加](#)(34 ページ)

SUM のノード画面

ノードとは、ハードウェア環境のコンポーネントです。ノード画面には、SUM に追加され、SUM が管理できるノードおよび関連ノードが表示されます。SUM に表示されるノードの詳細は、ノードタイプによって異なります。

ノード名の下にある黄色のステータスバーには、ステータスや、次にノードで実行できるアクションの簡単な説明が表示されます。すべての情報を表示するには、矢印をクリックします。たとえば、ノードを追加した後に、ノードをインベントリするためのリンクがステータスバーに表示される場合があります。そうでない場合は、ノードをインベントリした後に、アップデートを確認し、展開するためのリンクがステータスバーに表示されます。

SUM は高度なセキュリティモードの iLO ノードに対して、調査、インベントリ、およびアップデートの展開を実行できません。ノードを本番稼働モードに設定してから、ノードの調査を再試行してください。

注記:

SUM は FIPS モードまたは高度なセキュリティモードで実行中のノードを管理できません。

ノードステータスについて

ノードを追加してアップデートを展開したら、SUM が以下のステータスをノードに割り当てます。

- **調査** : SUM は、ノードアドレスとユーザー認証情報を確認します。必要な場合、調査でも CHIF ドライバーがインストールされます。Gen10 iLO 5 ノードでは、調査によって iLO レポジトリの詳細が取得されます。
- **インベントリ前** (Windows および Linux のリモートノードのみ) : SUM は、リモートノードでコマンドを実行し、オペレーティングシステムの詳細、取り付けられているハードウェア、インストールされている RPM (Linux ノード) を確認します。
- **インベントリ** : SUM は、ノードから情報を収集して、どのアップデートが適用されているか、および依存関係の問題があるかどうかを確認します。Windows および Linux のリモートノードの場合、SUM は、自身のバージョンに加えて、適用可能性の確認に必要なベースラインコンポーネントをコピーします。
- **アップデートの展開/インストール** : SUM は、ノードにアップデートを展開します。Windows および Linux のリモートノードの場合、展開に必要なすべてのコンポーネントがリモートノードにコピーされ、SUM がリモートノードで実行されます。iLO 5 ノードの場合、SUM は iLO レポジトリにコンポーネントをアップロードし、インストールセットのコンポーネントを保存します。
- **インストールの完了** : SUM はアップデートを終了し、必要に応じてノードを再起動します。

ライブログ情報を表示

ライブログでは、アクティブな展開のステータスを確認できます。SUM が複数のコンポーネントを展開している場合は、リストを検索して、特定のコンポーネントのステータスを表示します。展開が終了すると、SUM に**ログの参照**ボタンが表示されます。

手順

1. ノード画面でノードを選択し、**ライブログ**をクリックします。

ノードまたはその他の展開タイプの追加

SUM は、同じ機能を使用して、すべてのノードおよび展開タイプを追加します。

特定の IP アドレスを使用したり、IP アドレスの範囲を検索したりすることで、ノードを追加できます。

始める前に

1. ノードの IP アドレスまたは DNS 名がある。
2. ノードのユーザーログイン認証情報がある。
3. ベースラインをノードに割り当てる計画の場合は、最初にベースラインを追加する。

手順

1. IP または DNS 名を使用して 1 つのノードを追加する
2. アドレスの範囲を検索してノードを追加する
3. 入力ファイルによるノードの追加

IP または DNS 名を使用して 1 つのノードを追加する

手順

1. ノード画面で、**+ノードの追加**をクリックします。
2. **単一ノードあるいは既存の範囲のノードを追加**を選択します。
3. IP アドレス、DNS 名、IP アドレスの範囲、またはコマンドで区切られた複数のアドレスを入力します。たとえば、「10.0.1.1-10.0.1.20」と入力すると、20 個のノードが追加されます。「10.0.1.1, 10.0.1.2, 10.0.1.7」と入力すると 3 つのノードが追加されます。ノードが同じ認証情報を使用する場合、SUM はノードを追加します。

注記:

VC ノードを追加する場合は、プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。FC モジュールを含めて、インストールされているすべての VC モジュールが、プライマリ Enet モジュールを通して更新されます。

4. ノードの説明を入力します。
5. **追加するノードのタイプ**フィールドで、ノードタイプを選択します。ノードタイプがわからない場合は、**不明**を選択します。インベントリプロセスの実行中に SUM がノードタイプを決定します。展開のタイプ画面からノードを追加する場合、SUM は自動的にノードタイプを選択します。

一部のノードでは、SUM による自動の検出および関連するノードの追加が可能です。

注記:

正しいノードタイプを選択すると、ノードのインベントリをより速く追加することができます。

6. (オプション) このノードに適用するベースライン、追加パッケージ、またはその両方を選択します。
7. (オプション) リストからグループを選択します。
8. 次のいずれかを選択します。
 - **現在の認証情報を使用 (ノードとの既存の信頼関係が必要)**: このオプションは、Windows ノードのみを対象としています。
 - **管理者の認証情報を入力**: ノードに対する管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。Windows ユーザーの場合、管理者権限を持っていれば、`domain\username` を使用できます。

- Linux ノードでは、ルート認証情報を使用してノードにログインせずに、sudo 認証情報を使用してアップデートを展開できます。sudo コマンドを使用するには、ノードに sudo 機能をインストールする必要があります。

注記:

すべてのノードでスーパーユーザーおよび sudo を使用できるわけではありません。

sudo を使用する場合は、**アクセスレベル**フィールドで以下のいずれかを選択します。

- sudo 認証情報を使用する場合は、**コンポーネントをアップデートするために sudo を使用**をクリックします。
- スーパーユーザーの認証情報を入力する場合は、**コンポーネントをアップデートするためにスーパーユーザーの認証情報を入力してください**をクリックします。

注記:

スーパーユーザーの認証情報を使用する場合は、**認証情報**フィールドに通常ユーザーの認証情報を入力してから、**アクセスレベル**フィールドにスーパーユーザーの認証情報を追加します。SUM は、まず通常ユーザーの認証情報でログインしてから、スーパーユーザーの認証情報でスーパーユーザーのアカウントにログインします。

- 追加をクリックします。

ノードの追加セクションに、選択したノードが表示されます。

詳しくは

[ノード固有の追加情報](#)(47 ページ)

[Moonshot ノードの概要](#)(56 ページ)

アドレスの範囲を検索してノードを追加する

手順

- ノード画面で、**+ノードの追加**をクリックします。別の展開タイプ（たとえば、OA）を追加する場合、このボタンの名前は変わります。
- ネットワーク上のノードの検出**を選択します。
- ノードの検索**をクリックします。
- IP アドレス範囲**または**ポートアドレス**を選択します。

注記:

SUM は、0~65535 の範囲でポートを検索できます。

- 検索する SUM の IP アドレスの範囲を入力し、デフォルトポートのいずれかを選択、または**他**を選択してポートを入力し、**検索**をクリックします。

注記:

1つのサブネット/オクテット（つまり IPv4 アドレスの最後の 4 桁）のみが検索されます。

検出されたノードが**利用可能なノード**フィールドに表示されます。

- 利用可能なノード**セクションから追加するノードを選択してから、**ノードの追加**をクリックします。
- ベースラインを割り当てる場合は、**適用するベースライン**フィールドでベースライン、**追加のパッケージ**を選択します。
- 認証情報**セクションで、**現在の認証情報**を使用（ノードと既存の信頼関係が必要）、**管理者の認証情報**を入力、または**SSH キー認証情報**を入力（すべてのノードで選択できるわけではありません）を選択します。
- 管理者認証情報の入力を選択する場合は、**ユーザー名とパスワード**を入力します。

10. 追加をクリックします。
11. ノードの追加セクションに、選択したノードが表示されます。
12. キャンセルをクリックして、ノード画面に戻ります。

入力ファイルを使用したノードの追加

CLI で入力ファイルスクリプトを使用して多くのノードを追加し、追加したノードを GUI で展開できます。

手順

1. ノードの詳細を記述した入力ファイルを作成します。例：

```
#Input file sample
SILENT = YES
SOURCEPATH = C:\SPP
DRYRUN = TRUE

[TARGETS_USER_1]
HOST = 192.168.1.1
HOST = 192.168.1.3
HOST = 192.168.1.2
UID = user1
PWD = user_password1
[END]

[TARGETS_USER_2]
HOST = 192.168.1.4
HOST = 192.168.1.5
HOST = 192.168.1.6
UID = user2
PWD = user_password2
[END]
```

2. ターミナルウィンドウを開き、SUM が位置するディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
smartupdate /inputfile <path:\inputfile.txt> (Windows)
```

```
./smartupdate --inputfile <path:/inputfile.txt> (Linux)
```

3. GUI を起動し、ノードを管理します。ノードが追加されていない場合は、入力ファイルに問題がないことを確認します。

詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SUM-CLI-ja> を参照してください。

関連するノードの展開動作

SUM がどのノードを自動的に追加できるかと、SUM がどのような順番でノードを展開するかを以下に示します。

Onboard Administrator

関連するノードのタイプ：

- iLO
- Virtual Connect
- SAS スイッチ

展開の動作：

- 最初に OA を、次にその他のノードを展開します。

Virtual Connect

関連するノードのタイプ：

- Onboard Administrator

展開の動作：

- 最初に VC を、次に OA を展開します。

FC スイッチ

関連するノードのタイプ：

- パートナー FC スイッチ

展開の動作：

- 最初に選択されたスイッチに、次に関連するスイッチに展開します。

6Gb SAS BL スイッチ

関連するノードのタイプ：

- Onboard Administrator

展開の動作：

- 最初に選択されたスイッチに、次に OA に展開します。

iLO

関連するノードのタイプ：

- Onboard Administrator
- サーバー

展開の動作：

- 最初に iLO に、次に OA およびサーバーに展開します。

サーバー

関連するノードのタイプ：

- なし

Moonshot

関連するノードのタイプ：

- なし

Superdome X

関連するノードのタイプ：

- なし

注記:

IPv4 と IPv6 が混在する環境を実行している場合、SUM は以下の問題を示す可能性があります。

- 関連するノードとともに IPv6 iLO を追加する場合、関連するノードが IPv4 のみで構成されていると、SUM は IPv6 ノードを表示します。
 - SUM は、SAS および FC スイッチについては IPv6 をサポートしません。
-

ノード固有の追加情報

一部のノードには、ノードの追加の際に必要なノード固有の情報があります。

Windows

追加詳細情報：

SUM がノードでアップデート処理を検出した場合に実行する操作を入力します。

- アップデートの実行中のままにして、ノードをバイパスする
- ノード上で現在実行しているアップデート処理を停止し、このセッションからのアップデートに置き換える

Linux

追加詳細情報：

- Linux ノードでは、SSH キーの認証情報を使用できます。ユーザー名、プライベートキーファイルの位置、およびパスワード（必要な場合）を入力します。プライベートキーファイルでは、PEM 形式を使用する必要があります。
- SUM がノードでアップデート処理を検出した場合に実行する操作を入力します。
 - アップデートの実行中のままにして、ノードをバイパスする
 - ノード上で現在実行しているアップデート処理を停止し、このセッションからのアップデートに置き換える
- このノードのアクセスレベルを選択します。
 - なし
 - ここまでの操作で入力した認証情報で、sudo を使用する
 - スーパーユーザーの認証情報を入力する

VMware ホスト

追加詳細情報：

vCenter の VMware ホストで、管理者の認証情報を使用するか、認証チケットをオープンするかを選択します。チケットを使用すると、ロックダウンモードのステータスに関係なくノードをアップデートできます。

チケットを入手するために vCenter の詳細を入力してください（ホストへの認証情報）を選択する場合、ホストの IP/DNS、ユーザー名、およびパスワードを入力します。

注記:

SUM は、DRS または HA が有効になっている場合、VMware ノードを自動的に移行しません。VMware ノードの移行について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/ovvcenter/docs> で、HPE OneView for VMware vCenter のドキュメントを参照してください。

Onboard Administrator

追加詳細情報：

- 関連するノードを自動的に追加するかどうかを選択します。自動追加を選択すると、シャーシ内のすべてのノードが追加されます。

- OA と iLO を同時にアップデートする場合、OA ノードにこれを選択し、SUM が関連する iLO ノードを検出できるようにします。OA にアップデートを展開するとき、SUM は適切な展開順序を決定できます。
- 認証情報を指定しない場合、SUM は OA 用に指定された認証情報を関連する VC に使用します。

注記:

OA が FIPS モードである場合、SUM は、ファームウェアのダウングレードや再書き込みをサポートしません。メッセージが表示され、ダウングレードと再書き込みのオプションがオフになります。

Superdome X Onboard Administrator

追加詳細情報 :

ノード固有の設定はありません。

SAS B/L インターコネクトスイッチ

追加詳細情報 :

関連するノードを自動的に追加するかどうかを選択します。

ファイバーチャネルスイッチ

追加詳細情報 :

関連するノードを自動的に追加するかどうかを選択します。

iLO

追加詳細情報 :

関連するノードを自動的に追加するかどうかを選択します。

❗ 重要:

iLO 連携グループの一部として使用する場合は、iLO をノードとして追加しないでください。

Moonshot

追加詳細情報 :

- iLO Chassis Management の管理者認証情報 : ユーザー名とパスワード。
- スイッチの認証情報 : ユーザー名、パスワード、パスワードの有効化。(スイッチを更新している場合のみ必須)
- スイッチ B が同じ認証情報を使用する場合は、両方のスイッチ上の認証情報は同じを選択します。そうでない場合は、この選択をクリアし、スイッチ B の認証情報を入力します。

Virtual Connect

追加詳細情報 :

VC のアクティベーション順など、一部の VC オプションは、ノードの編集またはレビュー/展開画面から設定できます。

注記:

SUM は、HPE OneView によって管理されている Virtual Connect ノードにアップデートを展開することはできません。

- 関連するノードを自動的に追加するかどうかを選択します。
- 関連付けられている Onboard Administrator の認証情報の追加
 - **上記の認証情報を使用**
: ここまでの手順で入力した認証情報を使用します。
 - **管理者の認証情報を入力**
: 認証情報がここまでの手順で入力したものと異なる場合、その認証情報を入力します。

詳しくは

[関連するノードの展開動作\(45 ページ\)](#)

ノードの編集

ノードは、ノード画面の編集オプションを使用して変更されます。ノードを編集する前に、ノードのインベントリや展開などの機能がすべて完了していることを確認してください。編集できるオプションはノードによって異なります。ノード固有のオプションについて詳しくは、「[ノード固有の追加詳細情報](#)」を参照してください。

注記:

SUM は、同じ機能を使用して、すべてのノードタイプを編集します。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして**アクション > 編集**の順に選択します。
2. 以下では、編集可能なフィールドの一部を示します。
 - a. **説明**
 - b. **種類**
 - c. 選択した**ベースライン**と**追加のパッケージ**。

注記:

ノードがグループの一部である場合、グループのベースラインと追加パッケージの設定によってノードがオーバーライドされます。ベースラインまたは追加パッケージを変更するには、グループからノードを削除します。

d. 認証情報

3. **OK** をクリックして変更を確定し、ノード画面に戻ります。

ノードのアップデートの中止

SUM によるノードへのアップデートの展開中にアップデートを取り消すには、以下の手順に従ってください。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして、**アクション > 中止**の順に選択します。

注記:

SUM がすでにアップデートの実行を開始している場合、SUM は展開中のコンポーネントアップデートを完了してから、残りのコンポーネントのアップデートを中止します。

ノードのインベントリの実行

ノードインベントリは、ノードに関する情報、そのノードにインストールされているファームウェア、ソフトウェア、ドライバーのバージョンに関する情報を収集します。SUM は、自動検出コンポーネントの依存関係が見つからない場合はこれを検出します。

SUM は、新しい各セッションの実行中に、ノードのインベントリを実行して、ノード上のファームウェアやソフトウェアを確認する必要があります。

認証情報が無効な場合、SUM はノードのインベントリを実行できません。ノードの認証情報が無効な場合は、認証情報を編集してください。

注記:

OA ノードでインベントリを実行する場合、ノードの追加画面でチェックボックスを選択していれば、SUM が関連ノードを自動的に追加してインベントリを実行します。VC の認証情報は別々に追加します。ここでブレード iLO または VC のインベントリを実行しても、SUM はインベントリ処理が終了するまで関連 OA を検索しません。OA に認証情報を追加してから、OA ノードのインベントリを実行してください。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして**アクション > インベントリ**の順に選択します。
2. ノードに関連するベースラインが表示されます。インベントリに使用されるベースラインを再割り当てする場合は、ベースライン、追加のパッケージ、またはその両方を選択します。

Gen10 サーバーでは、インベントリまたは編集ページでベースラインとして保存したインストールセットを選択できます。

3. インベントリをクリックします。SUM は、アップデートを展開する前に解決する必要があるエラーを表示します。

詳しくは

[関連するノードの展開動作\(45 ページ\)](#)

ノードの展開

展開画面では、展開するノードの設定を変更できます。以下の設定を変更できます。

- インストールオプション
 - スケジューリングのオプション
 - 再起動オプション
 - iLO レポジトリオプション (Gen10 iLO 5 Windows および Linux ノードのみ)
 - 展開するコンポーネント。コンポーネントの構成は、ベースラインライブラリ画面から行ってください。
-

❗ 重要:

- SUM を仮想マシンで実行している場合は、ローカルホストにアップデートを展開しないでください。リモートノードにのみアップデートを展開します。
 - SUM で展開ボタンがアクティブになっている場合は、SUM が管理するコンポーネントの更新またはダウングレードを手動で実行しないでください。コンポーネントを手動で更新すると、SUM はコンポーネントをスキップし、エラーを報告します。
-

手順

1. ノード画面で、アップデートするノードを選択して**アクション > レビュー/展開**の順に選択します。
2. **インストールオプション**タブを選択して以下を変更します。

- **ダウングレードおよび再書き込みのオプション**

ファームウェアおよびソフトウェアのアップグレード

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントをアップグレードします。

ファームウェアのアップグレード

ファームウェアコンポーネントだけをアップグレードします。

ソフトウェアのアップグレード

ソフトウェアコンポーネントだけをアップグレードします。

ダウングレードと再書き込みの両方

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

ファームウェアのダウングレードと再書き込み

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

ソフトウェアのダウングレードと再書き込み

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

両方のダウングレード

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントをアップグレードおよびダウングレードします。

ファームウェアのダウングレード

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよびダウングレードします。

ソフトウェアのダウングレード

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよびダウングレードします。

両方の再書き込み

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントを、アップグレードおよび再書き込みします。

ファームウェアの再書き込み

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよび再書き込みします。

ソフトウェアの再書き込み

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよび再書き込みします。

- 詳細ログまたは通常ログ
- **依存エラーのあるコンポーネントをスキップ**
- 展開後に一時ファイルをクリーンアップするかどうかを選択します。
- 展開後にデバッグログと一時ファイルをクリーンアップするかどうかを選択します。

注記:

OA が FIPS モードである場合、SUM はファームウェアのダウングレードや再書き込みをサポートしません。SUM にメッセージが表示され、ダウングレードと再書き込みのオプションがオフになります。

3. 再起動オプションタブを選択して、次の選択を行います。
 - a. システムを再起動するオプションを、なし、必要な場合、常時から選択します。
 - b. ノードの再起動を遅延させる分数を入力します。1~60 分の間で選択します。
 - c. 表示する再起動メッセージを 255 文字以内で入力します。
4. Gen10 iLO 5 Windows および Linux ノードのみ：iLO レポジトリを管理するには iLO レポジトリオプションタブを選択します。
 - a. iLO レポジトリに選択したコンポーネントをアップロードし、インストールセットを作成するには、コンポーネントをインストールセットとして iLO レポジトリに保存を選択します。SUM によって自動的に名前と説明が作成されますが、インストールセットの名前と説明を入力することもできます。このインストールセットを使用して、サーバーコンポーネントをロールバックできます。名前と説明は 63 文字に制限されており、使用できる特殊文字は-と_だけです。
 - b. 次のいずれかを選択します。
 - **SUM が iLO レポジトリスペースを管理します**：必要に応じて、SUM が iLO レポジトリ上にスペースを自動的に作成します。SUM は以下を削除します。
 - 最初に参照されていないコンポーネント。
 - 最も古いインストールセット。iLO レポジトリには最大 8 個のインストールセットを保存できます。
 - **iLO レポジトリスペースを手動で管理**：削除するインストールセットまたは参照されていないコンポーネントを選択し、iLO レポジトリの空き領域を増やします。
5. ベースラインタブおよび関連付けられたパッケージタブで、展開するコンポーネントを選択します。

iLO5 ノードにアップデートを展開する場合、SUM を実行しているオペレーティングシステムに基づいて、SUM がコンポーネントを自動的に選択します。SUM がノードのオペレーティングシステムを検出できない場合、手動で該当するコンポーネントを選択します。

注記:

Gen10 iLO 5 ノードでは、すべてのコンポーネントに、コンポーネント署名ファイルを含める必要があります。署名ファイルがないと、SUM は展開をキャンセルします。署名ファイルがないコンポーネントの選択を解除し、他のアップデートを展開します。

6. 展開をクリックします。SUM は、ユーザーが加えたすべての変更が有効であることを確認し、コンポーネントの展開を開始します。

注記:

展開を開始するには、依存関係のすべての問題を解決する必要があります。またはコンポーネントをクリアして、インストールされないようにします。

7. ノード画面の一般セクションで、ノードの**ログの参照**をクリックした後、インストールしたコンポーネントの**ログの参照**をクリックしてインストールの詳細を確認します。

注記:

展開のステータスを確認するには、ノードのページで Live Log ボタンをクリックします。

iLO 5 更新オプション

iLO 5 を搭載する Gen10 サーバーでは、サーバーを 2 つの方法で更新することができます。

- SUM を備えたオペレーティングシステムを介して更新を展開します。
- iLO 5 を介して更新を展開します。SUM は iLO 5 に更新をロードします。iSUT は iSUT モードに基づいて更新を展開します。これには以下が必要です。
 - Integrated Smart Update Tools 2.0.0.0 以降
 - AMS 管理ツール

iSUT の詳細は、<http://www.hpe.com/info/sut-docs> を参照してください。

iLO レポジトリ

iLO レポジトリは、システムボードに埋め込まれた不揮発性フラッシュメモリ内の安全なストレージ領域です。このフラッシュメモリは、iLONAND と呼ばれます。SUM または iLO を使用して、iLO レポジトリ内の署名済みソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントを管理します。

iLO、UEFI BIOS、SUM、および他のクライアントソフトウェアは、これらのコンポーネントを取得し、サポートされるサーバーに適用できます。SUM を使用して保存されているコンポーネントをインストールセットに整理し、SUM または iLO を使用してインストールキューを管理します。

インストールセット

インストールセットは、1つのコマンドでサポートされるサーバーに適用できるコンポーネントのグループです。SUM を使用してインストールセットを作成します。iLO を使用して、iLO Web インターフェイスに既存のインストールセットを表示できます。

システムリカバリセット

デフォルトでは、システムリカバリインストールセットがすべてのサーバーに付属します。リカバリセット権限を持つユーザーアカウントがこのインストールセットを構成できます。

デフォルトのシステムリカバリセットには、以下のファームウェアコンポーネントが含まれます。

- システム ROM (BIOS)
- iLO ファームウェア
- システムプログラマブルロジックデバイス (CPLD)
- イノベーションエンジン
- サーバープラットフォームサービス (SPS) ファームウェア

デフォルトのシステムリカバリセットが削除された場合、リカバリセット権限を持つユーザーは SUM を使用してインストールセットを作成してから、iLO RESTful API を使用してシステムリカバリセットとして指定できます。システムリカバリインストールセットは一度に1つのみ存在できます。

システムリカバリセットの作成

更新ツールを使用してインストールセットを iLO レポジトリに保存します (例えば SUM)。

始める前に

- iLO でのリカバリセットアクセス許可。
- iLO レポジトリ内に保存されるインストールセット。
- iLO RESTful API。

手順

1. iLO RESTful API を開きます。
2. リカバリセットとして定義されているインストールセットがある場合、PATCH コマンドを使用して、IsRecovery パラメーターを false に定義します。

```
PATCH /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/
```

```
{  
  "IsRecovery": false  
}
```

3. PROMOTE コマンドを使用して、保存したインストールセットの IsRecovery パラメーターを true に変更します。

```
PROMOTE /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/
```

```
{
  "IsRecovery": true
}
```

詳しくは

[ノードの展開](#)(50 ページ)

iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態

Gen10 ノードを SUM に追加すると、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は、CHIF インターフェイスを介して行われます。iLO のセキュリティ状態に応じて、通信は次のモードで動作します。

通常モード (稼働モード)

通常モードでは、通信は暗号化されません。

セキュアモード

セキュアモードでは、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は暗号化され、承認および認証されます。

ノードが FIPS セキュリティモードを使用していることを SUM が検出した場合、SUM はそのノードを更新しません。FIPS モードをアクティブ化する前に、ノードを更新します。

Gen10 サーバーセキュリティモードについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> の *HPE Gen10 セキュリティリファレンスガイド*を参照してください。

SUM を使用した iLO レポジトリへの展開および管理

展開画面で、iLO 5 ノードにアップデートを展開すると、SUM は展開する iLO 5 のインストールキューを作成します。iLO レポジトリにコンポーネントを保存するかどうかを選択できます。

- **インベントリ画面**：この画面を使用して、ベースラインコンテンツ、または保存されているインストールセットや追加ベースラインのインベントリを作成します。
- **レビュー/展開画面**：この画面を使用して、選択したベースラインまたはインストールセットを展開します。他のノードについては、この画面はレビュー/展開画面のように動作します。

iLO レポジトリでは、次の方法でファームウェアを展開できます。

- **iLO および SUM**：SUM は iLO と連携して、たとえばオペレーティングシステムおよび iLO ノードなどのターゲットにアップデートを展開します。
- **iLO および iSUT**：iLO と iSUT は連携して、たとえばオペレーティングシステムおよび iLO ノードなどのターゲットノードにアップデートを展開します。

ノードレポートの生成

ノードの詳細、インストール可能なコンポーネント、失敗した依存関係を含め、SUM セッションに関する詳細情報を表示するレポートを生成できます。

ノードのレポートは、HTML、XML、および CSV 形式で作成できます。レポート画面の**レポートセンター**には、以前に生成したレポートが表示されます。SUM

注記:

SUM は、すべてのノードタイプに対して、同じ機能を使用レポートを生成します。

手順

1. ノード画面でノードを選択して、**アクション > レポート**の順に選択します。
2. 生成するレポートを選択します。

ファームウェアの詳細

ノードに現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。

展開プレビュー

ノードにインストールできるコンポーネントが表示されます。

失敗した依存関係の詳細

ノードでの失敗した依存関係が表示されます。

展開詳細

ノードにインストールした内容の詳細が表示されます。

インベントリ

ベースラインにどのコンポーネントが含まれているかについて、詳細が表示されます。

統合レポート

各レポートタイプのうちの1つが生成されます。

注記:

レポートを選択できない場合は、レポートを生成する情報が十分でないことが考えられます。
SUM

-
3. SUM で生成するレポートの形式 (**HTML**、**CSV**、または **XML**) をクリックします。

注記:

HTML および XML のレポートは、JavaScript 対応のブラウザで表示できます。

4. 高度なレポートオプションでは、次のことを行うことができます。
 - a. レポートを保存するディレクトリを選択します。ディレクトリが存在しない場合は、SUM が作成します。
 - b. レポートをバックグラウンドで実行するかどうかを選択します。
5. 生成をクリックします。

ノードの削除

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして**アクション > 削除**の順に選択します。
2. はい、**削除します**をクリックして、そのノードの削除を確認します。

サーバーの概要

ノードを選択すると、概要画面に、そのノードのインベントリと展開の進行状況バーとノードに関する情報が表示されます。たとえば、HPE Synergy フレームリンクモジュールについてはアップデートは展開されません。

SUM が表示する情報は、ノードのタイプによって異なります。情報には次のものが含まれます。

- ノードタイプ
- ノードアドレス
- NIC 情報
- FC HBA 情報
- ベースラインと追加パッケージ
- 警告/アラート

- iLO レポジトリで使用可能なインストールセット (Gen10 iLO5 ノードのみ)
- iLO レポジトリの詳細 (Gen10 iLO5 ノードのみ)

SUM は、インベントリと展開の処理中に現在のタスクの進捗状況バーを表示します。

Moonshot ノードの概要

SUM では、Moonshot ノードについて、次の情報が表示されます。

- 説明
- シャーシ名
- 製品名
- インストールされているバージョン
- ベースライン
- シリアル番号
- 製品 ID
- UUID
- スイッチ情報
- カートリッジ情報

注記:

Moonshot ノードに更新を初めて展開するとき、インストール済みのバージョンまたはアクティブなバージョンは表示されません。更新を展開し、次回 SUM を使用して更新を展開するとき、インストール済みのバージョンとアクティブなバージョンが表示されます。

前提条件

- スイッチがスタッキングモードではないこと。
- Comwolff スイッチを更新するには、iLO Chassis Management 1.5.0 以降が必要。

以下の操作は、概要画面から実行できます。

- **追加**：詳細は、「[ノードまたはその他の展開タイプの追加](#)(43 ページ)」を参照してください。
- **編集**：詳細は、「[ノードの編集](#)(49 ページ)」を参照してください。
- **レポート**：詳細は、「[ノードレポートの生成](#)(54 ページ)」を参照してください。
- **展開**：詳細は、「[ノードの展開](#)(50 ページ)」を参照してください。

注記:

SUM は、Moonshot ノードの再起動オプションをサポートしていません。

ノードグループ画面

ノードグループでは、ノードを組み合わせ、個別にではなくてグループでタスクを実行できます。ベースラインを割り当てたり、インベントリを実行したり、アップデートを確認してこの設定を共有するグループ内のすべてのノードに展開したりできます。ベースラインなど、グループ画面で割り当てる設定は、SUM にノードを追加したときにノードに適用した内容を上書きします。

ノードグループの追加

手順

1. グループ画面で、**+Create New Group** をクリックします。
2. ノードグループ名を入力します。
3. ノードグループの説明を入力します。
4. ノードグループに既存のノードを割り当てセクションで、グループに追加するノードを選択します。

- すべてのノードで同じベースラインを使用する場合は、**ベースラインセクション**で、**グループのベースラインと追加のパッケージ**（オプション）を選択します。

注記:

ここで選択したベースラインや追加パッケージは、ノード画面で選択したベースラインや追加パッケージより優先されます。

- 追加**をクリックします。

注記:

ノードグループからノードを削除するには、ノードの行の右側にある **X** をクリックします。

ノードグループの編集

手順

- リストからノードグループを選択します。
- Actions > Edit** の順に選択します。
- 変更する場合は、新しい**ノードグループ名**を入力します。
- 変更する場合は、新しい**ノードグループの説明**を入力します。
- ノードグループに既存のノードを割り当てセクション**で、ノードグループに追加するノードを選択します。
- ノードグループからノードを削除セクション**で、ノードグループから削除するノードを選択します。
- ノードグループ内のすべてのノードのベースラインと追加パッケージを変更する場合は、それらのベースラインと追加パッケージを選択します。
- ユーザー認証情報を変更する場合は、新しいユーザー認証情報を入力します。この認証情報によって、グループ内のノードの認証情報がオーバーライドされます。
- OK** をクリックします。

ノードグループのインベントリの実行

手順

- リストからノードグループを選択します。
- アクション > インベントリ**の順に選択します。
- 必要な場合は、ベースラインと追加のパッケージを割り当てます。
- インベントリ**をクリックします。

ノードグループの展開

手順

- リストからノードグループを選択します。
- アクション > レビュー/展開**の順に選択します。
- 展開するインストールオプション**を選択します。
- より詳細なログファイルが必要な場合は、**コンポーネント検証ログ**を選択します。
- 再起動オプション**を選択します。
- SUM が警告やアラートを表示する場合は、確認して修正します。SUM は、**警告を無視**を指定しない限り、グループへアップデートを展開しません。
- 依存関係エラーまたはコンポーネント署名ファイルがないことを報告するコンポーネントをスキップするかどうかを選択します。
- ベースラインライブラリセクション**で、展開するコンポーネントを選択します。

9. **展開**をクリックします。
10. 変更を加えた場合、SUM は依存関係のエラーがないことを確認してから、コンポーネントを展開します。SUM は、失敗した依存関係が解決されるまで展開を開始しません。依存関係を解決するか、コンポーネントをクリアします。

ノードグループレポートの生成

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **レポート**の順に選択します。
3. 生成するレポート、および SUM がレポートを保存する場所を選択します。
4. ノードグループとノードについて同じレポートが生成されます。

詳しくは

[ノードレポートの生成](#)(54 ページ)

ノードグループのアップデートの中止

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **中止**の順に選択します。

ノードグループの削除

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **削除**の順に選択します。
3. ノードグループを削除することを確認します。

高度なトピック

- [IPv6 ネットワークでの SUM の使用について](#)
- [使用される SUM のネットワークポート](#)

IPv6 ネットワークでの SUM の使用

Windows および Linux ノードサーバー用の IPv6 ベースネットワーク内のリモートノードに展開できません。

Windows ベースのサーバーがリモートノードサーバーと通信するために、SUM は、既存の認証情報またはユーザーが入力するユーザー名とパスワードを使用して、admin\$共有に接続します。この共有は、Windows Server が自動で設定する共有です。SUM は、admin\$共有に接続すると、インストールの実行中に使用するエンジンのバージョンをノードサーバーにコピーします。このエンジンが起動すると、SUM はこのエンジンを使用してローカルサーバーとリモートノードサーバーとの通信を行います。

SUM が通信に必要とするファイアウォールポートを開きます。インストールが完了するかまたは取り消されると、SUM はリモートエンジンを停止し、ノードからエンジンを削除し、Windows ファイアウォール上のポートを閉じてから、ノードとローカルシステム間の共有を解除します。

Linux ベースのサーバーがリモートノードサーバーと通信するために、SUM は、ユーザーが入力するユーザー名とパスワードを使用して起動し、ノードサーバーへの SSH 接続を確立します。SUM は接続後、インストールの実行中だけに使用するエンジンをノードサーバーにコピーします。このエンジンが起動すると、SUM はこのエンジンを使用してローカルサーバーとリモートノードサーバーとの通信を行います。

このプロセスの実行中、SUM は iptables のファイアウォールでポートを開きます。これにより、SUM は、SSL 経由で SUM エンジンと通信してローカルシステムとリモートシステムとの間でデータをやりとりできるようになります。インストールが完了するかまたは取り消されると、SUM はリモートエンジンを停止し、ターゲットサーバーからエンジンを削除し、iptables ファイアウォールのポートを閉じてから、ノードサーバーへの SSH 接続を終了します。

IPv6 ネットワークを設定するには、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

使用される SUM のネットワークポート

SUM では、特定のネットワークポートが使用可能である必要があります。ネットワークポートをロックダウンする場合は、ネットワークポートテーブルにリストされているポートが開いていて SUM がリモートのノードサーバーやホストに接続する際に正しく機能するかどうかを確認してください。これらのネットワークポートのロックを解除できない場合は、SUM をローカルで実行し、ネットワークベースのホストをその Web インターフェイス経由でアップデートする必要があります (OA、iLO、VC モジュールなど)。

注記:

SUM で、必要なファイアウォールポートをローカルホストおよびリモートサーバーで自動的に開くには、`open_firewall` パラメーターを使用します。

ほとんどのノードタイプのアップデートには、SUM を実行するサーバーとノード間の双方向のネットワークトラフィックが必要です。SUM を実行するサーバーはローカル HTTP サーバーを作成します。このサーバーはファームウェアバイナリをノードに提供したりノードのステータスを通知したりするために使用されます。アップデートプロセスの進行中、リモートノードは HTTP リクエストを発行し、SUM を実行するサーバーにステータスのアップデート情報を提示します。ルーティングの問題が発生する場合、またはリモートノードから SUM を実行しているシステムに戻るトラフィックをファイアウォールがブロックする場合は、ファームウェアのアップデートのブロック、ステータス更新のブロックまたは遅延、あるいはその両方が発生している可能性があります。

SUM トラフィックは、初期通信の作成によって使用できるポートのいずれかにバインドされた後、専用の大きいポート番号（1024 より大きい番号）に移すことができます。こうすることで、最初のポートを解放して新しいリクエストで使用できます。

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ		展開フェーズ	
		ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)	ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)
Windows	Windows	445、135、137、138、139	なし	445、135、137、138、139	なし
Windows または Linux	Linux	22	なし	22	なし
Windows または Linux	VMware	443、5989	63001	443、5989	63001
Windows または Linux	OA	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	なし
Windows または Linux	Moonshot、Superdome X	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	63001、63002
Windows または Linux	iLO、VC、FC スイッチ、SAS スイッチ	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	63001

SUM は、Windows および Linux の両方のシステムで、ポート 63002 を使用して `sum_binary` アプリケーションおよび `sum_service` アプリケーションの間で通信します。ポートが両方の列に表示されている場合、双方向通信が行われます。

注記:

Windows から Windows へのトラフィックでは、WMI、つまり標準の DCOM-In ポート 135、Async-in、および WMI-in を使用します。

ファイアウォールの競合がある場合は、`/port` コマンドと `/ssl_port` コマンドを発行し、ポートを 63001 および 63002 から変更します。`--open_firewall` を使用して、SUM が外部アクセスに使用する HTTP および HTTPS ポートを開きます。リモートノード機能やリモートブラウザアクセスを実行するには、これらのポートを開きます。例：

```
smartupdate /port 80 /ssl_port 443
```

`/ftp_port` コマンドを発行し、FTP サービスで使用するポートを割り当てることができます。デフォルトでは、FTP ポートは無効です。コマンドを使用して、サービスを有効にします。

.ini ファイル内のポートアドレスの変更

`sum.ini` ファイルを編集するか、`/port` または `/ssl_port` の CLI パラメーターを使用することによって、SUM が使用するネットワークポートを変更することができます。SUM CLI モードの使用について詳しくは、*Smart Update Manager CLI ガイド* を参照してください。

次に、よく使われる代替ネットワークポートを示します。

手順

1. `port=63001` を編集して、`port=80` に変更
2. `ssl_port=63002` を編集して、`ssl_port=443` に変更

SUM エンジンのトラブルシューティング

SUM が応答を停止する。

症状

- アップデートの展開に、予想よりも長い時間がかかる。
- ベースラインでインベントリを実行すると、SUM が応答を停止する。
- SUM が突然シャットダウンする。

解決方法 1

アクション

1. 以下の操作を試してください。
 - SUM を起動します。
 - `clean-cache` を実行し、SUM を起動します。
 - SUM エンジンをシャットダウンします。SUM ディレクトリからコマンド `smartupdate shutdownengine` を使用します。
 - コンピューターを再起動して、SUM をもう一度実行します。

解決方法 2

原因

SUM にシステムリソースまたはネットワークリソースがない可能性があります。

アクション

1. 一度に 50 以上のノードまたは 10 以上の VMware ノードを展開しないでください。

解決方法 3

原因

複数のベースラインでインベントリを実行すると、非常に多くのシステムリソースを使用する場合があります。

アクション

1. SPP ベースラインへのインベントリの実行は、一度に 1 つずつとしてください。

SUM がユーザーを予期せずログオフする

症状

長い非アクティブ期間の後、SUM がユーザーをログアウトする。

原因

これは意図的なものです。操作のない状態が長期間続いた後、SUM はユーザーをログアウトします。

アクション

1. ユーザー認証情報を使用して SUM にログインします。

ドライブ上の空き容量が 0 であること（ないこと）が SUM に表示される

症状

使用可能なディスクに 4 TB を超える空き容量がある場合でも、空きディスク容量がないという警告を SUM が表示する。

アクション

1. GUI モードの展開画面で警告を無視を選択します。
2. CLI モードで、`/ignore_warnings` パラメーターを含めます。
3. Inputfile モードで、パラメーター `IGNOREWARNINGS=YES` を含めます。

テキストが変換されない

症状

画面上の何らかのテキストが変換されない。

アクション

1. 処置は不要です。これは既知の問題で、将来のバージョンで修正されます。

「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される

症状

SUM に「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される

原因

SUM は、Windows ベースのサーバーで admin\$共有機能を使用し、リモートノードサーバーでファイルをコピーして必要な操作を実行します。SUM がリモート Windows ノードへの複数の接続を検出した場合は、「Multiple connections to a server or shared resource by the same user, using more than one user name, are not allowed. Disconnect all previous connections to the server or shared resource and try again.」と表示されることがあります。

SUM にこのエラーが表示される場合は、アップデートするリモートノードで開いている admin\$共有があるかどうかをチェックして、接続を削除します。公開の共有を確認して削除するには、次のコマンドを使用します。

アクション

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. `net use` と入力します。
3. リモートノード上に公開接続が見つかったら、次のように入力します。`net use<node_admin_share>/delete`
4. エラーが表示される原因になった SUM で操作を試みます。

SUM がポートエラーを報告する

症状

SUM がブロックされたポートに関するエラーを報告するか、またはポートから切断しない。

アクション

1. SUM を終了し、システムを再起動します。
2. `sum.ini` で使用されているポートをクリアします。
3. SUM を起動します。

ブラウザーが SUM との接続を終了する

症状

Chrome または Internet Explorer ブラウザーは SUM との接続を終了するが、SUM は実行されたままである。

原因

Internet Explorer および Chrome ブラウザーが、SUM 接続セッションから切断した可能性があります。

アクション

1. ターミナルウィンドウを開き、SUM が起動されたディレクトリに移動します。
2. コマンド `smartupdate /shudownengine` を入力します (Windows)。
3. SUM を再起動します。

SUM を使用しても予想どおりにユーザーがログオフできない

症状

プロセスの実行中は、ユーザーが予想どおりにログオフできません。

アクション

1. SUM がすべてのインベントリ作成および展開を終了するまで待機してから、ログオフを試みてください。

ベースラインのトラブルシューティング

SUM の依存関係の問題

症状

1. SUM がコンポーネントエラーの `Missing 32 lib depend` を表示する。
2. SUM で Red Hat Enterprise Linux システムの SUSE Enterprise Linux の依存関係がリストされる

解決方法 1

原因

ご使用のシステムに一部の 32 ビット依存関係がインストールされていない可能性があります。

アクション

1. システムにすべての 32 ビットライブラリがインストールされていることを確認してください。必要なライブラリの詳細については、コンポーネントのリリースノートを参照してください。

解決方法 2

原因

SUM で Red Hat コンポーネントではなく SUSE コンポーネントが誤ってリストされる。

アクション

1. アクションは不要です。

SUM がセルフインベントリコンポーネントの依存関係エラーを表示する

症状

ベースラインライブラリ画面で、SUM がセルフインベントリを実行するコンポーネントの依存関係エラーを表示します。

原因

ユーザーが root ユーザーアカウントを使用している間にサーバーを展開し、sudo 権限を使用して SUM を実行しました。

アクション

1. 次のディレクトリを削除します。

```
/var/tmp/sum
```

SUM がコンポーネントを検証しない

症状

ベースラインライブラリ画面に、欠落している `composig` ファイルが表示される。

アクション

1. ベースラインのディレクトリからコンポーネントを削除します。
2. コンポーネントの新しいコピーをベースラインのディレクトリにダウンロードします。
3. ベースラインを検証します。

詳しくは

[ベースラインコンポーネントの再検証\(39 ページ\)](#)

SUM が、同一コンポーネントの複数のバージョンを表示する

症状

カスタムベースラインを作成するとき、SUM にコンポーネントのバージョンが複数表示される。

原因

複数のソースベースラインに同一のコンポーネントが含まれています。

アクション

1. コンポーネントのコピーを 1 つ選択します。

コンポーネントが無効として表示される

症状

SUM がコンポーネントの `cp027753.exe` を Disabled として表示する。

原因

`masterdependency.xml` ファイルの `allow_rewrite` パラメーター設定と `allow_downgrade` パラメーター設定が間違っています。

アクション

1. この問題を回避するには、`masterdependency.xml` ファイルを削除またはアップデートします。

△ 注意:

`masterdependency.xml` ファイルを削除または編集すると、展開で障害が発生する可能性があります。SUM は、このファイルを使用して、コンポーネント間の依存関係の問題を解決します。

2. SUM を閉じます。
3. テキストエディターで、`masterdependency.xml` ファイルを開きます。
4. `cp027753.exe` の `allow_rewrite` パラメーターと `allow_downgrade` パラメーターを検索し、`yes` に変更します。
5. `clean-cache` アプリケーションを実行し、ノードとベースラインの情報を削除します。

注記: `clean-cache` を実行すると、SUM データベースからすべてのノード情報が削除されません。

6. SUM を起動し、ノードを追加した後、ノードの展開を続行します。

カスタムベースラインの画面にノードタイプが表示されない

症状

カスタムベースラインのソースをフィルターするときにノードタイプが表示されない。

解決方法 1

原因

ソースベースラインにそのノードタイプのコンポーネントが含まれていない可能性があります。

アクション

1. ベースラインにそのノードタイプのコンポーネントが含まれていることを確認します。

解決方法 2

原因

ノードタイプがクリア状態の可能性があります。

アクション

1. アドバンスドフィルターですべてのノードタイプの選択を解除し、ベースラインソース内のすべてのコンポーネントを表示して、ベースラインに追加するコンポーネントを選択します。

リモートデスクセッションを終了した後、SUM がベースラインを保存しない

症状

リモートデスクトップセッション間で、SUM がベースラインまたはノード情報を保存しない。

原因

リモートデスクトップがセッション間の一時フォルダーを保存していません。

アクション

1. 詳しくは、Microsoft 社の Web サイト <http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc755098.aspx> の記事を参照してください。

SUM が HTTP ベースラインを検証しない

症状

SUM が HTTP リポジトリからダウンロードしたベースラインを検証できない。

原因

SUM は、HTTP を介してダウンロードしたベースラインを検証しません。ダウンロードされた.exe ファイルはマニフェストファイルと比較されません。

アクション

1. これは、SUM で予想されている動作です。

SUM 画面に古い情報が表示される

症状

SUM 画面に表示される情報が古いか、正しくない。

原因

Web ブラウザーで、SUM 画面のキャッシュされたバージョンが保存されています。

アクション

1. Web ブラウザーのキャッシュをクリアします。

ベースラインを追加するとき、SUM がブラウザを更新する

症状

Web から取得されたベースラインを追加するときに一覧を取得をクリックすると、ブラウザウィンドウが更新される。

原因

これは Internet Explorer 11 で発生する問題です。

アクション

1. 別の Web ブラウザーを使用します。

SUM が展開用のコンポーネントを選択できない

症状

バージョンが異なるコンポーネントを使用できますが、SUM ではそのバージョンは自動選択されません。

原因

SUM は、日付のフォーマットを認識しません。

アクション

1. Smart インストーラーを使用してコンポーネントを更新してください。

SPP ISO に対してベースラインインベントリが応答しない

症状

SPP ISO が Gnome 仮想ファイルシステム経由でマウントされているときは、SUM インベントリを実行しても応答しません。

原因

Gnome 仮想ファイルシステムは、ファイルの読み取りおよび実行パーミッションには適用されません。

アクション

1. 手動で SPP をディレクトリに抽出してから、SUM を起動してください。

ノードのトラブルシューティング

選択したすべてのサーバーで、SUM のオフライン展開を開始できない

症状

選択したすべてのサーバーで、iLO 連携グループでのオフラインレビュー/展開処置が開始されない。

原因

管理ネットワークが、オフライン展開要求を処理できません。

アクション

1. サーバークラスの規模を小さくして、オフライン展開要求を試みます。
エンクロージャーで複数のサーバーを使用している場合は、サーバークラスのメンバーを 8 つまでに制限することをお勧めします。
2. ご使用の環境に適用されるアップデートだけを含むカスタム ISO を使用して、オフライン展開要求を試みます。

SUM で sudo ユーザーの問題が発生する

症状

sudo を使用してノードを編集すると SUM が応答しない。

原因

ユーザー認証情報にリモートノードの管理者権限がない可能性があります。

アクション

1. SUM にログインしたユーザーがシステムの管理者グループに属していることを確認してください。

SUM 展開ボタンが表示されない

症状

SUM のノードの展開画面に展開ボタンが表示されない。

原因

SUM が、失敗した依存関係を検出しました。

アクション

1. アップデートの展開を試行する前に、すべての依存関係が SUM で解決されていることを確認してください。

SUM ノードのインベントリが失敗する

症状

- リモートの Windows ノードでインベントリの障害が発生する。ノードのログに、`RegOpenKeyEx failed with error RegOpenKeyEx completed with error 997: Overlapped I/O operation is in progres` というエラーが表示されます。
- SUM に VMware ノードのインベントリエラーが表示される。

解決方法 1

原因

これは、バックアップやレジストリにアクセスするプロセスなど、リモートの Windows ノードで動作している別のプロセスでの問題である可能性があります。

アクション

1. レジストリにアクセスしているリモートプロセスをシャットダウンするか、ノードでローカルに SUM を実行し、インベントリを実行してアップデートを展開します。

解決方法 2

原因

VMware サービスが開始されていません。

アクション

1. VMware サービスが実行されていることを確認します。VMware ESXi シェルにログインします。
2. プロバイダーバージョンを確認し、`esxcli software vib list | grep smx` と入力します。
3. プロバイダーサービスが実行されていることを確認し、`/etc/init.d/sfcbd-watchdog status` と入力します。
4. プロバイダーがクエリに応答することを確認し、`enum_instances SMX_SCInstallationService root/hpq` と入力します。
5. サービスを再起動するには、`/etc/init.d/sfcbd-watchdog restart; /etc/init.d/sfcbd-watchdog status;` と入力します。

解決方法 3

原因

`pciinfo.depot` ファイルが誤った場所にあります。

アクション

1. すべてのタスクを閉じ、ノードの重要データをバックアップします。
2. root 権限でノードにログインします。
3. SUM ディレクトリ/`ia64/`にあるファイル `pciinfo.depot` をノードに転送します。
4. `swinstall -x autoreboot=true -s 'pwd' ./pciinfo.depot PCCIINFO` を実行します。
5. アップデートが終了したら、リモートホストで SUM を再実行して、追加のアップデートを続行できます。

SUM がノードを検出しない

症状

SUM が、一部のノード（たとえば、ソリッドステートハードドライブ）を検出しない場合がある。

原因

SUM がコンポーネントから収集した情報が、ノードからの情報と一致していない可能性があります。

アクション

1. ベースライン内にコンポーネントがあり、SUM がノードを検出しない場合、SUM の外部でコンポーネントを実行します。

Linux ホストで Windows ノードが追加されない

症状

Linux ホストで SUM を実行している場合、SUM が Windows ノードを追加しない。

原因

SUM は、Linux ホストからリモート Windows ノードへのアップデートの展開をサポートしません。

アクション

1. Windows ノードを追加するには、Windows ホストで SUM を実行してください。

SUM がノードに接続できない

症状

SUM に「Unable to login or identify node as a supported device (サポートされるノードタイプとしてノードを認識することができません)」というメッセージが表示される。

解決方法 1

原因

SUM でリモートノードとの接続の問題が発生しています。

アクション

1. 以下の点を確認します。
 - ネットワークでノードがアクティブになっている。
 - ネットワークポートが開いている。
 - Windows のノードで \$Admin 共有が有効になっている。
 - Linux のノードに対して HTTP および SSH アクセスが有効になっている。

解決方法 2

原因

ユーザー認証情報が正しくありません。

アクション

1. 有効なユーザー認証情報が提供されていることを確認します。

NIC ファームウェアがアクティブ化されない

症状

SUM が NIC を再起動した後、NIC ファームウェアがアクティブ化されない。

原因

すべてのコンポーネントの前提条件が満たされていることを確認します。

アクション

1. NIC を手動で再起動します。起動中に EFI シェルを選択します。アップデートは続行し、完了すると HP-UX が再起動します。

コンポーネントのバージョン情報が表示されない

症状

SUM にコンポーネントのバージョン情報が表示されない。

原因

SUM がコンポーネントの内容を正しく読み取っていません。

アクション

1. コンポーネントのバージョンが使用するバージョンであることを認識している場合は、SUM をオンラインモードで実行し、コンポーネントの展開を強制的に実行します。

open_firewall コマンドが動作しない

症状

一部のノードで CLI コマンド `open_firewall` が動作しない。

原因

一部のインスタンスで SUM がファイアウォールを開くことができません。これには、他社製ファイアウォールアプリケーション、Linux iptables DROP エントリー、および複雑なルールを持つファイアウォールが含まれます。

アクション

1. `open_firewall` コマンドが動作しない場合、ファイアウォールを手動で開くと、SUM はノードを管理できます。

リモートノードのファイアウォールエラー

症状

リモートノードのファイアウォールでエラーの可能性があることが報告される。

アクション

1. 実行されているファイアウォールがないこと、ネットワークポートが開いていることを確認し、`http_proxy` パラメーターおよび `https_proxy` パラメーターを確認し、CURL のプロキシ設定を確認します。

CURL プロキシ設定について詳しくは、<http://curl.haxx.se/docs/manpage.html> の Web サイトを確認してください。

SUSE Linux Enterprise Server ノードのプロキシ構成については、ディレクトリ `etc/sysconfig/proxy` を確認してください。

HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるかの確認

症状

HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるか判断できない。

アクション

1. Smart アレイ SAS/SATA ドライバーを更新するときに、レビュー/展開画面で HPCISSS2 と HPCISSS3 の両方のドライバーを選択した場合は、次の表を使用して、どのドライバーがインストールされるかを確認してください。

インストールされるドライバーバージョン	CISSS2	CISSS3
HPSAMD ドライバー	このドライバーを選択した場合のみインストールされます。	両方のドライバーを選択した場合は、CISSS3 がインストールされます。
HPCISSS2 ドライバー	インストールおよび更新されます。	
HPCISSS3 ドライバー		インストールおよび更新されます。

SUM は、HPCISSS2 ドライバーで HPCISSS3 ドライバーを上書きすることも、HPCISSS3 ドライバーで HPCISSS2 ドライバーを上書きすることはありません。更新が完了すると、HPCISSS3 ドライバーが HPCISSS2 ドライバーを上書きした、または HPCISSS2 が HPCISSS3 を上書きしたと表示されます。SUM を再起動すると、ドライバーがインストールされなかったこと、およびドライバーのインストール準備が完了している则表示されます。

特定のドライバーをインストールする必要があるが、SUM が他のドライバーをインストールする場合は、SUM の外部でアップデートを実行し、選択したドライバーをインストールします。

SUM が Broadcom ポートをスキップする

症状

SUM が Broadcom ノードをアップデートしない。

原因

SUM がアップデートの展開を試みても、Broadcom ポートが起動しません。

アクション

1. ネットワークアダプターの取り付けに関して、該当するドライバーの前提条件を確認し、必要なポートの状態を確認します。

SUM が OA アップデートを間違っ報告する

症状

完全にインストールされている OA アップデートが SUM で失敗として報告される。

原因

SUM とターゲットノード間のタイミングの問題があります。

アクション

1. SUM を閉じて再起動し、ノードでインベントリを実行して、コンポーネントバージョンの詳細を検出します。

SUM で Windows クラスタノードへの展開が行われない

症状

Windows クラスタのメンバーノードにアップデートを展開するとき、予期しない問題が発生する。

原因

SUM は、Windows クラスタ環境をサポートしません。

アクション

1. Windows クラスタからノードを削除します。
2. 操作を再実行してください。

SUM がノード入力ファイルの詳細に含まれる暗号化キーを処理しない

症状

暗号化キーは、入力ファイルノードの詳細に追加されると予想どおりに処理されません。

アクション

1. SUM は個々のパラメーターではなく、グローバルパラメーターとして ENCRYPTION_KEY パラメーターを処理します。別のキーが必要な場合は、複数の入力ファイルを使用してください。

VMware のトラブルシューティング

RPM アップデートが VMware ノードを展開しない

症状

SUM が VMware ESXi ノードに RPM アップデートを展開しない。

原因

RPM パッケージは Linux ノードのみをサポートします。

アクション

1. 処置は不要です。

カスタムベースラインに VMware ノード用の RPM コンポーネントが含まれている

症状

VMware ノード用に作成されたカスタムベースラインに、RPM コンポーネントが含まれている。

原因

Linux ノードタイプが選択されています。

アクション

1. カスタムベースラインを作成し、フィルターに Linux オペレーティングシステムが含まれていないことを確認します。

レポートのトラブルシューティング

SUM がレポートを生成しない

症状

SUM がノード用のレポートを生成できない。

原因

ノードがオフラインであるか、SUM がノードにアクセスできません。

アクション

1. ノードがオンラインか、ファイアウォールが開いているか、および SUM がノードに ping を送信できるかを確認します。

対話式 CLI モードでのコマンドの実行

コマンドラインからの SUM のアップデート

SUM には、GUI の外でシステムコマンドを実行するための方法があります。

- CLI: 1つのコマンドラインにすべてのパラメーターを追加し、サイレントスイッチを使用して、ユーザーが操作することなく複数のノードでシーケンス全体を実行できます。この方法を使用して1つまたは複数のノードを更新できます。
- 入力ファイルを使用する CLI: すべてのパラメーターをテキストファイルに追加してから、パラメーターとしてテキストのファイル名を指定し、inputfile コマンドを使用して SUM を呼び出すことができます。入力ファイルの方法を使用すると、多数のノードを指定して更新できます。CLI、および入力ファイルを使用した CLI の使用方法については、SUM CLI ガイドを参照してください。
- 対話式 CLI: 対話型の方法でプロセスの各ステップを実行できます。この方法は GUI を使用することに似ていますが、コマンドを個別に指定します。SUM 対話式 CLI では一度に1つのコマンドを実行します。この方法を使用すると、ノードを更新の別々のステージにすることができます。たとえば、あるノードをインベントリフェーズに、またあるノードを展開フェーズに、残りのノードを追加中の状態にすることができます。
- ファームウェア RPM: SUM RPM の展開は、ファームウェア RPM を展開するための方法です。
- 統合された Smart Update ツール (iSUT): iSUT を使用して、ご使用のノードにアップデートを展開できるスクリプトを実行することができます。iSUT を実行する前に、コンポーネントを構成します。iSUT の使用については、*Integrated Smart Update Tools User Guide* を参照してください。

SUM バイナリ実行可能ファイルは、必要に応じて、セッションベースの状態情報を保持します。SUM は `hpsum.ini` ファイルにこの情報を保存します。このファイルは、Windows では `%localappdata%\sum\` に、Linux では `/var/tmp/sum/` に保存されます。SUM で格納されるのは、ユーザー、セッション ID、およびポート情報です。これらの情報を使用して、ログインしたり、別の認証情報を使用して SUM を実行したりすることができます。

ノードの展開

以下の手順は、ノードを展開するための基本的な手順にリンクしています。

手順

1. ノードおよびベースラインを追加します。
2. インベントリを実行します。
3. アップデートを展開します。
4. レポートを生成します。

詳しくは

[add](#)(81 ページ)

[inventory](#)(106 ページ)

[deploy](#)(91 ページ)

[generatereports](#)(94 ページ)

abort

説明

コマンドを安全に終了します。

構文

```
smartupdate abort [--nodes [nodelist]]
```

パラメーター

`--nodes <nodelist>`

中断操作を実行するノードのリスト(完全なホスト名または IP アドレス)。ノードを指定しない場合、すべてのノードのすべてのタスクが終了します。

制限

このパラメーターは以下をサポートしません。

- ノードの追加。
- ローカルベースラインでのインベントリの実行。
- OA、VC、iLO、およびスイッチノード上でのアップデートの展開。

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate abort /nodes 100.2.3.4 100.2.3.5
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate abort --nodes 100.2.3.4 100.2.4.5
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

activate

説明

特定のデバイスに基づいて、以前にステージングまたはインストールしたアップデート（再起動、またはその他の処理のため）をアクティブにします。

構文

```
smartupdate activate --nodes <nodelist> --cancelpending
```

パラメーター

--nodes <nodelist>

ノードのアクティブ化操作を実行するノードのリスト（完全なホスト名または IP アドレス）。指定しない場合、コマンドはセッションのすべてのノードに適用されます。

制限

activate コマンドは、サーバーノードにのみ適用されます。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate activate /nodes 10.0.0.1 10.0.0.2
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate activate --nodes 10.0.0.1 10.0.0.2
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

add

説明

ベースラインまたはノードを現在のセッションの現在の作業セットに追加します。

構文

```
smartupdate add --nodes
```

```
smartupdate add --baselines
```

パラメーター

/nodes コマンドの直後に指定され、ノードの前に使用されているパラメーターは、グローバルパラメーターと見なされます。これらのパラメーターは、コマンドに指定されているすべてのノードに適用されません。例:

```
smartupdate add /nodes user=user1 password=password1 type=linux 192.168.1.2  
192.168.1.10
```

user、password、および type パラメーターは、両方のノードに適用されます。

指定したノードの後で使用されているパラメーターは、そのノードのみに適用されます。

```
smartupdate add /nodes 192.168.1.15 user=user2 password=password2 type=linux  
192.168.1.17 user=user3 password=password3 type=windows
```

user2、password2、および linux パラメーターは、ノード 192.168.1.15 に適用されます。user3、password3、および windows パラメーターは、192.168.1.17 に適用されます。

--nodes <nodeslist>

追加操作を実行するオブジェクト。リストの項目はスペースで区切ってください。ユーザーとパスワードはすべてのノードでグローバルに指定できます。

domain_name: localhost

ip: 127.0.0.1

ipv6: ::1

ノードまたはベースラインのいずれかを追加します。同じコマンドで両方を追加しないでください。

VC ノードを追加する場合は、プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。FC モジュールを含めて、インストールされているすべての VC モジュールが、プライマリ Enet モジュールを通して更新されます。

type = <node type>

このパラメーターはノードタイプを定義します。これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。SUM は、次のノードタイプをサポートします。

- windows
- linux
- ilo
- virtual_connect

プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。VC ノードには、oa_username および oa_password が必要です。VC ノードを追加する場合は、oa_username と oa_password の属性を組み込みます。

- oa
- vmware
- sas_switch
- fc_switch
- sdx
- moonshot
- unknown

skip_prereqs = <true|false>

デフォルトでは、Windows ノードに CHIF ドライバーがインストールされます。CHIF ドライバーのインストールをスキップするには、true オプションを使用します。

user=<user_name>

例 : user=john_doe@example.com

これは、ノードのユーザー名認証情報を提供します。コマンド行でこの情報を入力しない場合、SUM によってユーザー名を入力するように求められます。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

ノードが Linux ノードであり、Windows ドメインの一部である場合、ユーザー名に次の形式を使用します。

<domain>\<username>

password=<password>

例 : password=userpassword

このユーザーパスワードは、ノードの認証に使用されます。コマンド行でこの情報を入力しない場合、SUMによってパスワードを入力するように求められます。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

SUM は、ユーザー認証情報について、Windows ドメインアカウントをサポートします。

su_user=<super_userID>

例 : user=su_john_doe@example.com

スーパーユーザーのユーザー名。

su_password=<super_user_password>

例 : password=su_userpassword

スーパーユーザーのパスワード。

use_sudo

有効なオプション : TRUE、FALSE

認証情報を sudo 認証情報として使用します。

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

switch_username=<switch_a_username>

Moonshot スイッチ A のユーザー名。スイッチ B のユーザー名がスイッチ A と同じ場合、この値が両方のスイッチに適用されます。

注記:

setattributes コマンドを使用してスイッチ B の認証情報を割り当てることができます。

switch_password=<switch_a_password>

Moonshot スイッチ A のパスワード。スイッチ B のパスワードがスイッチ A と同じ場合、この値が両方のスイッチに適用されます。

注記:

setattributes コマンドを使用してスイッチ B の認証情報を割り当てることができます。

switch_enable=<enable_password>

Moonshot ノードに対して、スイッチ A を有効にします。パスワードが同じ場合は、A および B スイッチに対してこの値を使用することができます。

vcenter_host

VMware がロックダウンモードになっている場合、これは VMware vCenter のアドレスです。

vcenter_username および vcenter_password とともにこれらのパラメーターを使用して、ロックダウンモードの VMware ホストとの接続を確立します。

vcenter_username

これは、VMware ホストとの接続を確立するためのユーザーアカウントです。

vcenter_password

これは、VMware ホストとの接続を確立するためのアカウントのパスワードです。

use_sshkey

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

Linux ノードのみ。このコマンドでは `privatekeyfile` と `passphrase` (オプション) を使用しません。

privatekeyfile=<PEM_file_absolute_path>

プライベートキーの絶対アドレスを入力します。プライベートキーは、PEM 形式でなければなりません。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

passphrase=<passphrase>

(オプション) プライベートキーのパスフレーズを入力します。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

override_connection

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

このパラメーターは、ノードの詳細を指定する前にパラメーターを指定することで、グローバルオプションとしても指定できます。

--baselines <directory_path>

このパラメーターを使用してディレクトリを指定することで、ローカルベースラインを追加します。HTTP ベースラインを追加する場合は、`save_location` パラメーターを使用します。

save_location=<working_location>

ダウンロードする HTTP ベースラインを保存するディレクトリ。

type=<baseline_type>

このパラメーターはベースラインタイプを定義します。SUM は次のベースラインタイプをサポートします。

http

unc (Windows のみ)

注記:

ローカルホストシステムで UNC ディレクトリが開いていないことを確認します。

unc_username=<unc_username>

UNC ディレクトリパスのユーザー名を入力します。(Windows に対してのみ) 有効です。

unc_password=<unc_password>

UNC ディレクトリパスのパスワードを入力します。(Windows に対してのみ) 有効です。

bundle=<bundle_name>

追加するバンドルファイル名を入力します。バンドルファイル名のリストを表示するには、コマンド `getbaselines /list` を使用します。例：`bundle=spp.2014.02.0.B`

filter_os=<os_filter>

(HTTP ベースラインのみ) この属性を使用して、SUM ダウンロードするコンポーネントを、オペレーティングシステムを基準にフィルタリングできます。有効なオプションは、次のとおりです。

```
windows
linux
vmware
```

制限

- 1つのコマンドで、ベースラインとノードを同時に追加しないでください。2つの別々のコマンドを使用します。
- SUM の対話式 CLI モードはノードまたはベースラインを自動的に追加しません。対話式 CLI モードでは、関連ノードが自動的に追加されません。GUI モードを使用して、関連するデバイスを追加します。

使用方法

```
smartupdate add [--nodes n1 [type=<node_type>] [user=<username>]
[password=<userpassword>] [su_user=<su_user>] [su_password=<suuser_password>]
[use_sudo=true/false] [switch_username=<Moonshot_switchA_username>]
[switch_password=<Moonshot_switchA_password>]
[switch_enable=<Moonshot_switchA_enable>]
--baselines b1 [save_location=<directory>] [type=<baseline_type>]
```

Windows での使用法

Windows のサンプルのコマンドライン

```
C:\>smartupdate add /nodes 10.0.1.15 type=windows
C:\>smartupdate add /baselines type=http save_location=c:\temp\spp
bundle=http://10.1.2.3/spp/hp/swpackages/bp002524.xml filter_os=linux
C:\>smartupdate add /nodes type=vc 10.0.1.16 user=Administrator
password=12iso*help oa_username=Administrator oa_password=12iso*help
C:\>smartupdate add /nodes 10.0.1.4 type=vmware vcenter_host=10.0.1.20
vcenter_username=Administrator vcenter_password=password
C:\>smartupdate add /nodes 10.1.2.3 type=virtual_connect
oa_username=Administrator oa_password=mypassword1
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate add --nodes 10.0.1.16 type=linux
$ ./smartupdate add --baselines "/SPP/" "/tmp/myrepos/"
$ ./smartupdate add --baselines type=http save_location=c:\temp\spp
bundle=http://10.1.2.3/spp/hpe/swpackages/bp002524.xml filter_os=linux
$ ./smartupdate add --nodes type=vc 10.0.1.18 user=Administrator
password=12iso*help oa_username=Administrator oa_password=12iso*help
$ ./smartupdate add --nodes 10.0.1.4 type=vmware vcenter_host=10.0.1.20
vcenter_username=Administrator vcenter_password=password
$ ./smartupdate add --nodes 10.1.2.3 type=virtual_connect
oa_username=Administrator oa_password=mypassword1
```

注記:

ノードタイプが Linux の場合は、su_user および su_password、または use_sudo を使用できません。

例:

```
smartupdate add /nodes 192.168.1.1 type=Linux user=user password=password  
su_user=user1 su_password=password1
```

```
smartupdate add /nodes 192.168.1.1 type=Linux user=user password=password  
use_sudo=true
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト:The command failed.(コマンドが失敗しました。) For details, see the logs.
(詳細は、ログを参照してください。)

configure

説明

ベースライン内のコンポーネント構成設定のエクスポート、インポート、表示ができます。

構文

```
smartupdate configure --export baseline=<baselinename> dir=<directoryname>  
[component=<componentname> includeCredentials=true|false]
```

```
smartupdate configure --import baseline=<baselinename> dir=<directoryname>  
[component=<componentname>]
```

```
smartupdate configure --show baseline=<baselinename>  
[component=<componentname>]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

/export

このパラメーターは、指定されたディレクトリにコンポーネント構成をエクスポートします。

/import

このパラメーターは、指定されたディレクトリからコンポーネント構成をインポートします。

/show

このパラメーターは、ベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成オプションを表示します。

baseline=<baselinename>

インポート、エクスポート、または表示するコンポーネントが含まれるベースラインを指定するには、このパラメーターを指定します。

dir=<directoryname>

コンポーネント構成設定のエクスポート先またはインポート元のディレクトリを指定するには、このパラメーターを使用します。

component=<componentname>

これはオプションのパラメーターです。これには、インポート、エクスポート、または表示するコンポーネントの名前を指定します。コンポーネントを指定しない場合、SUM はベースラインのすべてのコンポーネントをエクスポート、インポート、または表示します。

includeCredentials=<true|false>

これはオプションのパラメーターです。true を選択した場合、SUM は構成設定をエクスポートするときにユーザー認証情報を含めます。このパラメーターのデフォルトは true です。

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate configure /import baseline=C:\spp.2012.01 dir=C:\Components
```

この例では、C:\spp.2012.01 ベースラインの C:\Components ディレクトリの下にあるすべてのコンポーネント構成が SUM にロードされます。

```
C:\>smartupdate configure /import baseline=C:\spp.2012.01 dir=C:\Components
\cp022423_conf component=cp022423.exe
```

この例では、SUM はベースライン C:\spp.2012.01 のコンポーネント cp022423.exe の構成のみをディレクトリ C:\Components にインポートします。

```
C:\>smartupdate configure /show baseline=C:\spp.2012.01
```

この例では、SUM はベースライン C:\spp.2012.01 から、すべてのコンポーネント構成を表示します。

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate configure --export baseline=/root/SPP.2012.01 dir=/root/
Components
```

この例では、SUM はベースライン /root/SPP.2012.01 から、すべてのコンポーネント構成をディレクトリ /root/Components にエクスポートします。

```
$ ./smartupdate configure --export baseline=/root/SPP.2012.01 dir=/root/
Components component=hp-snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm
includeCredentials=false
```

この例では、SUM はベースライン /root/SPP.2012.01 にあるコンポーネント hp-snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm の構成のみをディレクトリ /root/Components にエクスポートします。この例では、SUM は、認証情報をエクスポートしません。

```
$ ./smartupdate configure --show baseline=/root/SPP.2012.01 component=hp-
snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm
```

この例では、SUM はベースライン /root/SPP.2012.01 から、コンポーネント hp-snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm の構成のみを表示します。

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

delete

説明

選択されたベースラインまたはノード、および選択されていないベースラインまたはノード（あるいは両方）を現在のセッションから削除できます。iLO レポジトリからインストールセットを削除できます。ノード上で機能を実行しているベースラインまたはノードを削除することはできません。

構文

```
smartupdate delete --nodes [nodelist]
smartupdate delete --baselines [baselinelist]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

--nodes [nodelist]

削除操作を実行するオブジェクト。リストはスペースで区切ります。ノードリストを指定しない場合、すべてのノードが削除されます。

--baselines [baselinelist]

削除操作を実行するオブジェクト。リストはスペースで区切ります。ベースラインリストを指定しない場合、すべてのベースラインが削除されます。

```
--baselines <install_set_name> node=<node IP>
```

iLO レポジトリに保存されているインストールセットを削除します。インストールセット名と iLO 5（または Windows または Linux を実行する Gen10 サーバー）の IP アドレスを提供します。SUM は、ロックされているインストールセットを削除できません。

制限

1つのコマンドで、ベースラインとノードを同時に削除しないでください。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate delete /baselines "spp.2012.01"
C:\> smartupdate delete /nodes 10.0.0.1
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate delete --baselines "spp.2012.01"
```

```
$ ./smartupdate delete --nodes 10.0.0.1
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

deploy

現在のセッションの現在の作業セットのノードに展開を実行できます。ノードを指定しない場合、デフォルトでは現在選択されているリストのすべてが対象になります。

構文

```
smartupdate deploy [--nodes [nodelist]]
```

パラメーター

--nodes [nodelist]

展開操作を実行するノードのリスト。各ノードは次の3つの方法で指定できます。

domain_name: localhost

ip: 127.0.0.1

ipv6: ::1

ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが展開されます。

--cleanup_onexit

以下のファイルを削除します。

- Linux ディレクトリ/usr/lib/i386-linux-gnu または/usr/lib/x86_64-gnu にコピーされたファームウェア RPM。
- 抽出されたファームウェア RPM ディレクトリとフォルダーの内容。
- ベースラインの抽出されていないコンポーネント。
- SUM が読み取り専用の場所から起動される場合、このパラメーターは localsum ディレクトリを削除します。

--cleanupall_onexit

以下のファイルを削除します。

- Linux ディレクトリ/usr/lib/i386-linux-gnu または/usr/lib/x86_64-gnu にコピーされたファームウェア RPM。
- 抽出されたファームウェア RPM ディレクトリとフォルダーの内容。
- ベースラインの抽出されていないコンポーネント。
- SUM が読み取り専用の場所から起動される場合、このパラメーターは localsum ディレクトリを削除します。
- デバッグログ。

制限

ノードへの更新が存在しない場合、SUM がノードに更新を展開したことを示すことがありますが、何も展開されていません。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate deploy /nodes 10.7.0.0
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate deploy --nodes 10.7.0.0
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

findavailablenodes

ネットワークで使用可能なノードを検索できます。使用可能にするには、ノートにアクセスできるようにし、別の管理システムがそのノードを排他的に制御できないようにする必要があります。このパラメータは、指定した範囲の IP アドレスを検索し、オプションのポートを受け入れます。

構文

```
smartupdate findavailablenodes --type ip|port [ipAddrLow ipAddrHi] [port]
```

説明

Parameters/Options/Flags/Strings/...

--type ip|port

type オプションを渡す場合、値は次の3つのタイプのいずれかに一致している必要があります。

1. ip - SUM が検索する IP アドレス範囲を入力します。オプション : ipAddrLow; ipAddrHi
2. port - SUM が検索できる IP アドレス範囲とともに、ポート番号を入力します。オプション : ipAddrLow; ipAddrHi; portNum

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate findavailablenodes /type ip 10.7.85.0 10.7.85.128
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate findavailablenodes --type port 10.7.85.0 10.7.85.128 445
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

generatereports

SUM セッションのレポートを生成できます。このレポートには、インベントリ、ファームウェア、失敗した依存関係、展開プレビュー、インストールされているコンポーネント、および統合レポートが含まれます。出力はデフォルトで `attributes values` になり、レポートのタイプは `all available` になります。

構文

```
smartupdate generatereports [--type inventory | firmware | installables | faileddep | installed | combined] [--output html | xml | csv] [--nodes [nodelist]] [--baselines [baselinelist]]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

--type

`type` パラメーターを指定する場合は、次のいずれかである必要があります。

- Inventory
- Firmware
- Installables
- Faileddep
- Installed
- Combined

タイプを指定しない場合は、使用可能なすべてのタイプが生成されます。

--output

- xml
- csv
- html

出力タイプを指定しない場合は、すべての形式が生成されます。

--nodes [nodelist]

SUM は、リスト内のすべてのノードの詳細情報を含む単一のレポートを生成します。ノードリストを指定しない場合、現在のセッションのすべてのノードが選択されます。

--baselines [baselinelist]

レポートに含めるベースラインのリスト。ベースラインリストを指定しない場合、現在のセッションのすべてのベースラインが選択されます。

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate generatereports /type inventory /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate generatereports --type faileddep --nodes 10.7.85.0 10.7.85.128
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getattributes

セッションまたは選択したノードの属性のいずれかを表示できます。属性は SetAttributes コマンドを使用して変更できます。

構文

```
smartupdate getattributes [--nodes [nodelist]] [--session]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

--nodes [<nodelist>]

属性を取得するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが表示されます。

--session

SUM セッションで使用可能な属性を一覧表示します。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate getattributes /nodes localhost
```

```
C:\> smartupdate getattributes /nodes 10.0.1.2
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getattributes --nodes localhost
```

```
$ ./smartupdate getattributes --nodes 10.0.1.4
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getbaselines

現在の SUM セッションのベースラインのリストを表示できます。

構文

```
smartupdate getbaselines [<baselinelist --details>] [nodeip]
```

パラメーター

baselinelist [--details]

この操作の実行に使用するベースラインの場所。--details を指定すると、詳しいベースライン情報を取得できます。

nodeip <ipaddress>

ノード上のインストールセットをリストします。(Gen10 iLO 5 ノードのみ)

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate getbaselines c:\spp\baseline1 /details
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getbaselines
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getcomponentlogs

ノードのコンポーネントログを表示できます。

構文

```
smartupdate getcomponentlogs [--nodes [<nodelist>]] [--component <componentname>]
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>]

この要求の対象となるノード。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。

--component <componentname>

SUM がログを表示するコンポーネントの名前。このパラメーターを使用する場合は、コンポーネント名を入力する必要があります。コンポーネントを指定しない場合、SUM はすべてのコンポーネントのログを生成します。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate getcomponentlogs /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getcomponentlogs --nodes 10.0.1.1 --component cp020024.exe
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getcurrentlyinstalledversions

現在の SUM セッション内で、ノードに現在インストールされているコンポーネントのバージョンを取得できます。

構文

```
smartupdate getcurrentlyinstalledversions [--nodes [<nodelist>]]
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>]

インストールされているバージョンを取得するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate getcurrentlyinstalledversions /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getcurrentlyinstalledversions --nodes localhost
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getenginestatus

SUM セッションのステータス情報を取得できます。

構文

```
smartupdate getenginestatus
```

Windows での使用法

```
C:/>smartupdate getenginestatus
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getenginestatus
```

出力例

```
No SUM engine found running.
```

出力例

```
Process name:
```

```
Copyright:
```

```
Version:
```

```
Active Sessions:
```

```
Engine status:
```

```
Total number of sessions:
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getlogs

すべてのログを収集して圧縮ファイルに格納する、SUM の GatherLogs 関数を起動します。デフォルトでは、SUM はログファイルを次のいずれかの場所に保存します。

- Windows
 - C:\cpqsystem\log
 - C:\cpqsystem\sum\log
 - C:\Windows\Temp\SUM
 - %localappdata%\sum
- Linux
 - /var/log/sum
 - /var/cpq
 - /var/tmp/SUM

オプション

debuglogdir <directorypath>

デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにあるログファイルを検索するように SUM に指示します。

logdir <directorypath>

デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにあるログファイルを検索するように SUM に指示します。

構文

```
smartupdate getlogs
```

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate getlogs
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getlogs
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs.
(詳細は、ログを参照してください。)

getneededupdates

コマンドの一部として渡される現在の選択または項目のいずれかの状態に基づいて、必要なアップデートの詳細を表示できます。ノードを指定しない場合、コマンドはセッションで現在選択されているノードを使用します。

構文

```
smartupdate getneededupdates [--nodes [<nodelist>]]
```

説明

パラメーター

--nodes [<nodelist>]

必要なアップデート操作のチェックを実行するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate getneededupdates /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getneededupdates --nodes localhost
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getnodes

現在の SUM セッションのノードのリストを表示できます。Gen10 および iLO 5 ノードでは、iLO レポジトリのインストールセット、各インストールセットのコンポーネント、および保留中の iLO タスクキューアイテムもリストされます。

構文

```
smartupdate getnodes [<nodelist> --details]
```

パラメーター

--<nodelist>

操作を実行するノード。

--details

[--details] を指定すると、詳細情報を取得できます。

制限

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate getnodes 10.0.1.1 /details
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate getnodes 10.0.1.1 --details
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

inventory

ノードをスキャンして、ファームウェア、ドライバー、およびハードウェアコンポーネントの現在インストールされているバージョンを特定できます。

構文

```
smartupdate inventory [--nodes <nodelist>] [--baselines <baselinelist>]
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>]

inventory コマンドを実行するノードのリスト。各ノードは次の方法で指定できます。

- localhost
- 127.0.0.1
- ::1

--baselines [<baselinelist or install_set_name>]

SPP またはコンポーネントのパスを指定します。ベースラインの場所にスペースや特殊文字が含まれる場合は、エスケープ文字 (Linux) または二重引用符 (Windows) を使用します。

iLO レポジトリに保存されたインストールセットを使用するには、ノードの IP アドレスまたは DNS 名とベースラインインストールセットの名前を含めます。

ベースラインにノードリストを含める場合、SUM は指定されたベースラインを持つノードでインベントリを実行します。ノードリストを含めない場合は、SUM はベースラインでのみインベントリを実行します。

制限

インベントリを実行する前に、`setattributes` パラメーターを指定して管理オプションを設定します。たとえば、AMS、SNMP、または WMI のエージェントを設定します。

暗号化キーを使用して VC ノード上でインベントリが正常に完了したら、`setattributes` コマンドを使用して、`encryption_key` パラメーターの詳細を割り当てます。

Windows での使用法

```
C:\>smartupdate inventory /nodes 10.0.1.1 /baselines C:\Users\Administrator
\Desktop\blds\ilo\26.33
```

```
C:\>smartupdate inventory /nodes 10.0.1.1 /baseline <install_set_name>
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate inventory --nodes 10.0.1.1 --baselines /root/Desktop/rono/
blds/ilo
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

login

現在のセッションに使用する認証情報を設定できます。

構文

認証情報を使用して初めて認証する :

```
smartupdate login [--username <username> --password <password>] [--port <port>] [--ssl_port <sslport>] [--ftp_port <ftpport>] [--open_firewall]
```

現在の認証情報で認証する :

```
smartupdate login
```

パラメーター

--username

ユーザー名を追加するためのオプションパラメーター。

--password

ユーザーパスワードを追加するためのオプションパラメーター。

--port

SUM が使用するポートを定義するためのオプションパラメーター。

指定できる値は、次のとおりです :

80、1024~65535

--ssl_port

SUM が使用する SSL ポートを定義するためのオプションパラメーター。

指定できる値は、次のとおりです :

443、1024～65535

--ftp_port

SUM が使用する FTP ポートを定義するためのオプションパラメーター。FC スイッチをアップデートする場合は、このパラメーターを指定します。

指定できる値は、次のとおりです：

disabled、21、1024～65535

--debuglogdir <filepath>

ログファイルを保存する場所を SUM に指示します。ディレクトリパスを入力します。

--open_firewall

SUM は、すべてのファイアウォールインスタンスを開くことができるわけではありません。SUM がファイアウォールを開くことができない場合は、そのファイアウォールを手動で開きます。

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate login /username rono /password pwd123 /ssl_port 9091
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate login --username rono --password pwd123 --ssl_port 9091
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

setattributes

SUM ノードまたはセッションの属性を変更できます。権限が適切でない場合、要求されたセットにパラメーターが含まれていない場合、または値が使用できない場合、setattributes コマンドは無効なパラメーターであるというメッセージを返すことがあります。

変更できる属性のリストを表示するには、getattributes コマンドを使用します。使用可能な属性は、各セッションに追加されたノードおよびベースラインに基づいて変わります。例：

```
smartupdate /getattributes /session (Windows)
```

```
smartupdate /getattributes /nodes (Windows)
```

構文

```
smartupdate setattributes --nodes [<nodelist>] attribute1=value1  
attribute2=value2
```

```
smartupdate setattributes --session attribute1=value1
```

対話式 CLI のセッション属性を割り当てます。

```
smartupdate setattributes --session <attribute>=<value> (Linux)
```

```
smartupdate setattributes /session <attribute>=<value> (Windows)
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>] attribute=value

ノード、およびノードに適用する属性を指定します。

--session attribute=value

適用するセッション属性を指定します。セッション属性は全体に適用されます。

セッションパラメーターのオプション

auto_save_session

[true|false]

auto_save_session_time

<integer> - 時間 (分単位)。デフォルト値は、15 分です。

engine_mode

[debug|release]

software

[true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

firmware

[true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

rewrite

[true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

downgrade

[true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

language

[en|ja|cn]

verbosity

[normal|verbose|veryverbose]

- normal - 展開について SUM が提供するデフォルトの量の情報。
- verbose - 情報を使用可能な場合、展開に関してより詳細な情報を提供します。
- veryverbose - 情報を使用可能な場合、展開に関してさらに詳細な情報を提供します。

verbose

[true|false]

```
smartupdate setattributes /nodes verbose=true
```

SUM が展開中に提供する詳細情報の量を決定します。

report_dir

[directory_path] - SUM がレポートを保存するディレクトリのパス。例：C:\SUM_reports\。

open_firewall

[true|false]

SUM が外部通信に使用する HTTP および HTTPS ポートのオープンを SUM に許可するオプションのパラメーター。リモートノード機能およびリモートブラウザーアクセスのためにポートを開くときにも使用します。

再起動

有効なオプション：

ifneeded、always、never

このセッションの再起動オプションを決定します。

ノードパラメーターのオプション

Use_vCenter

VMware ノード用のオプション。

[true|false]

この属性を true に設定する場合は、以下の設定を入力します。

- `vcenter_host` - VMware vCenter ノードの IP アドレス。
- `vcenter_username` - VMware vCenter ノードのユーザー名。
- `vcenter_password` - VMware vCenter ノードに接続するユーザーのパスワード。

これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

encryption_key

オプション：

最小 8 文字の文字列。

FIPS モードを有効にしている VC ノードに必要なパラメーター。SUM は、暗号化キーを使用して、アップデートプロセス中にディスクに保存された構成を暗号化します。この値は独立しており、VC のパスワードに一致させる必要はありません。

VC インベントリが正常に完了した後にこのパラメーターを割り当てます。

ethactorder

設定可能な値：

ODDEVEN/PARALLEL/SERIAL/MANUAL。デフォルト値は ODDEVEN。

VC-Enet モジュールの有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

fcactorder

設定可能な値：

ODDEVEN/PARALLEL/SERIAL/MANUAL。デフォルト値は SERIAL。

VC-FC の有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

ethactdelay

有効なエントリー：

0~60 分。デフォルトは 0 分です。

VC-Enet モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

fcactdelay

有効なエントリー：

0~60 分。デフォルトは 0 分です。

VC-FC モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

use_sshkey

Linux ノードのみ

指定される可能性があるオプション：

- `true`
- `false`

その他の属性

- `privatekeyfile`
 - プライベートキーのアドレスを入力します。プライベートキーは、PEM 形式でなければなりません。
- `passphrase`
 - (オプション) プライベートキーのパスフレーズを入力します。

これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

no_mgmt

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

展開では、AMS、SNMP、または WBEM Provider は選択されません。

use_snmp

(Linux のみ)

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

SUM は SNMP コンポーネントを展開します。

use_wmi

(Windows のみ)

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

SUM は、WBEM Provider コンポーネントを展開します。

use_ams

(Gen9 以降)

指定される可能性があるオプション：

- true
- false

SUM は Windows システムと Linux システムの両方に AMS コンポーネントを展開します。

skip_prereqs = <true|false>

デフォルトでは、Windows ノードに CHIF ドライバーがインストールされます。CHIF ドライバーのインストールをスキップするには、true オプションを使用します。

ignore_tpm

指定される可能性があるオプション：

[true|false]

このパラメーターは、TPM または TM モジュールがサーバーにインストールされている場合に、TPM 警告メッセージを無視するように SUM に指示します。

このパラメーターは、サーバーおよび iLO ノードでサポートされます。

on_failed_dependency

[omithost|omitcomponent|force]

- omithost - SUM は、失敗した依存関係を検出した場合、ホストをスキップします。(デフォルト)
- omitcomponent - SUM は、失敗した依存関係を含むコンポーネントをスキップします。ノード上の他のコンポーネントは展開されます。
- force - SUM は失敗した依存関係を含むコンポーネントを強制的に展開します。

ignore_warnings

指定される可能性があるオプション :

[true|false]

このパラメーターは、何らかのエラーが発生した場合に、警告を無視するよう SUM に指示します。エラーは、次のとおりです。

- 保留中の iLO 5 タスクキューの警告。
- 例外タスクキューの警告。
- iLO 5 または iSUT の警告。
- TPM/TM の警告。
- ディスク容量の不足。

iLO 5 のパラメーター

--save_install_set <true/false>

True : iLO レポジトリにインストールセットを保存します。

False : (デフォルト) iLO レポジトリにインストールセットを保存しません。

--install_set_name <SPP_baseline>

iLO レポジトリに保存するインストールセットの名前を指定します。SPP ベースラインにのみ有効です。

--install_set_description <description>

インストールセットを割り当てる説明を保存します。

--manually_manage_iLO_repository = <true>

True : (デフォルト) 新しいインストールセット用のスペースを作るためにインストールセットが自動的に削除されないようにします。

--skip_missing_compsig

設定可能な値 : [TRUE|FALSE]

コンポーネント署名ファイルがないコンポーネントの展開をスキップします。デフォルト値は false です。

Superdome X パラメーターのオプション

update_type

[ALL/COMPLEX/PARTITIONS] - この値は、アップデートする Superdome X ノードを SUM に通知します。

device_list

[devicelist] - この値は、アップデートする Superdome X ノードを SUM に通知します。

reboot_list

[rebootlist] - この値は、展開後に再起動する Superdome X ノードを SUM に通知します。

Moonshot パラメーターのオプション

以下の認証情報がスイッチ A のものとは異なる場合、スイッチ B の Moonshot 固有の属性を設定できます。これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

switch_username

[username] - Moonshot A スイッチのユーザー名。

switch_password

[password] - Moonshot A スイッチのパスワード。

switch_enable

[enable_password] - Moonshot A スイッチの有効化パスワード。

switchb_username

[username] - Moonshot B スイッチのユーザー名。

switchb_password

[password] - Moonshot B スイッチのパスワード。

switchb_enable

[enable_password] - Moonshot B スイッチの有効化パスワード。

パラメーターオプションのダウングレードと再書き込み

GUI のダウングレードと再書き込みの組み合わせ、および対応する対話式 CLI パラメーターについて以下で説明します。

ソフトウェアのみ

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false  
firmware=false software=true
```

ファームウェアのみ

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false  
firmware=true software=false
```

ファームウェアとソフトウェア

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false  
firmware=true software=true
```

ソフトウェアのダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true  
firmware=false software=true
```

ファームウェアのダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true  
firmware=true software=false
```

両方のダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true  
firmware=true software=true
```

ソフトウェアの再書き込み

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false  
firmware=false software=true
```

ファームウェアの再書き込み

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false  
firmware=true software=false
```

両方の再書き込み

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false  
firmware=true software=true
```

ソフトウェアの再書き込みとダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true  
firmware=false software=true
```

ファームウェアの再書き込みとダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true  
firmware=true software=false
```

両方の再書き込みとダウングレード

```
smartupdate setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true  
firmware=true software=true
```

Windows での使用法

```
C:\> smartupdate setattributes /nodes 10.0.1.5 firmware=true software=true  
rewrite=true downgrade=true
```

```
C:\> smartupdate setattributes /nodes 10.0.1.5 update_type=all
```

```
C:\> smartupdate setattributes /session open_firewall=yes
```

```
C:\> smartupdate setattributes /nodes 10.0.0.4 use_vcenter=true  
vcenter_host=10.0.0.1 vcenter_username=test vcenter_password=password
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate setattributes --nodes 10.0.1.5 firmware=true software=true  
rewrite=true downgrade=true
```

```
$ ./smartupdate setattributes --nodes 10.0.1.5 update_type=all
```

```
$ ./smartupdate setattributes -session open_firewall=yes
```

```
$ ./smartupdate setattributes --nodes 10.0.0.5 use_vcenter=true  
vcenter_host=10.0.0.1 vcenter_username=test vcenter_password=password
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト: A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

shutdownengine

SUM エンジンを終了できます。他のセッションがアクティブの場合、`--force` オプションを使用しないと失敗します。

△ 注意:

`--force` を使用すると、情報が失われる場合があります。

構文

```
smartupdate shutdownengine [--force]
```

パラメーター

--force

他のセッションがアクティブの場合でも強制的にシャットダウンします。

--cleanup_onexit

SUM ファイルをリモートノードから削除します (ユーザーおよびデバッグログファイルを除く)。

--cleanupall_onexit

SUM ファイルを削除します (インストール済みのファームウェア RPM を含む)。ユーザーログファイルは削除されません。

Windows での使用法

```
C:/>smartupdate shutdownengine /force
```

Linux での使用法

```
$ ./smartupdate shutdownengine --force
```

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

ファームウェア RPM の展開

このセクションでは、SUM ファームウェアコマンドを使用して、サポート対象の Linux オペレーティングシステムを実行しているノードに ProLiant ファームウェアを RPM 形式で展開する方法について説明します。

SUM RPM ツールについて

SUM ファームウェアコマンドツールは、<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM>（英語）で入手できます。SUM を実行するための前提条件について詳しくは、SUM リリースノートを参照してください。サポートされている Red Hat Enterprise Linux および SuSE Linux Enterprise Server の各オペレーティングシステムに対応するバージョンを入手できます。

SPP ISO および RPM について

SPP ISO には、パスワードで保護されたファームウェアとパスワードで保護されていないファームウェアが RPM と SCEXE の両方の形式で含まれます。SDR には、パスワードで保護されていないファームウェアを格納する SPP フォルダと、パスワードで保護されているファームウェアを格納する FWPP フォルダの 2 つのフォルダがあります。SDR 上のすべてのファームウェアは RPM 形式です。

ファームウェア RPM へのアクセス

手順

1. 標準の Linux ツール（YUM など）を使用して、集中管理されたレポジトリ（<http://downloads.linux.hpe.com/SDR>（英語）にある Software Delivery Repository など）からシステムファームウェアのコレクションを取得します。

前提条件

手順

1. ターゲットシステムで以下の作業を行います。これらの作業は、uid=0（root）権限を使用して実行します。
 - [YUM ディストリビューションの使用（RedHat）](#) (119 ページ)
 - [Zypper ディストリビューションの使用（SuSE）](#) (120 ページ)

YUM ディストリビューションの使用（RedHat）

該当するファームウェアをインストールし、配信して、ローカルにキャッシュします。

手順

1. レポジトリの場所に移動します。
2. YUM にレポジトリを追加します。

```
# cd /etc/yum.repos.d/  
# wget http://hpe:firmrpms@10.0.0.1/~username/firmware/firmware.repo
```

必要なパッケージの自動検出

- SUM のファームウェアコマンドユーティリティをインストールします。
- SUM を使用してシステムを照会し、どのパッケージが必要かを報告します。

```
# yum install smartupdate
# yum install $(smartupdate requires) --skip-broken
```

Zypper ディストリビューションの使用 (SuSE)

該当するファームウェアをインストールし、配信して、ローカルにキャッシュします。

手順

1. Zypper にレポジトリを追加します。

```
# zypper addrepo http://hpe:firmrpms@10.0.0.1/~user/firmware/firmware.repo
```

詳しくは、<https://downloads.linux.hpe.com/SDR/project/hpsum> を参照してください。

必要なパッケージの自動検出

- SUM のファームウェアコマンドユーティリティをインストールします。
- SUM を使用してシステムを照会し、どのパッケージが必要かを報告します。

```
# zypper install sum
# zypper install $(smartupdate requires)
```

ファームウェアコンポーネントの展開

SUM ファームウェアコマンドの主な機能は、コマンド `smartupdate upgrade` を使用して、パッケージ化されたコンテンツからターゲットホスト上のデバイスにいたるまで、ファームウェアのフラッシュまたはアップグレードを行うことです。

手順

1. コマンド `smartupdate upgrade` を使用して、ファームウェアフラッシュエンジンを起動します。

グローバルオプション：

- `--y`、`--yes`：すべてのオプションに `yes` を選択したと見なされます。
- `--v`、`--verbose`：冗長情報を表示します。

その他のアップグレードオプション：

- `--f`：強制的なアップグレード
- `--dry-run`：アップグレードが問題なく実行されることをテストします。アップグレードを展開しません。
- `--d` または `--downgrade`：ダウングレードコンポーネント。
- `--debuglogdir`：SUM がログファイルを保存するディレクトリを定義します。
- `--r` または `--rewrite`：コンポーネントを再書き込みします。
- `--ignore-warnings`：SUM が返す警告を無視し、インストールを続行します。
- `--cleanup_onexit`：以下をクリーンアップします。

- IP フォルダーにコピーされた FWRPMS。
- ベースラインに解凍されたコンポーネント。
- ファームウェアラッパーを生成したすべての一時ディレクトリ。
- `--cleanupall_onexit`: ファームウェアラッパーによって生成されるすべて (デバッグログを含む) をクリーンアップします。このコマンドでは、ユーザーのログは削除されません。

その他の RPM コマンド

info

ターゲットシステム上で使用可能なファームウェアパッケージについて情報を収集します。

構文

```
smartupdate info
```

list

ターゲットホストに何がインストールされているかと比較して、使用可能なファームウェアパッケージについて情報を収集します。

構文

```
smartupdate list
```

出力例

```
smartupdatelist
```

```
Searching for firmware.
Analyzing results.
```

Info	NAME	VERSION	INSTALLED	TYPE
icRU	system-p70	2015.07.01	2015.07.0	system
ifrU	ilo4	2.5	2.4	ilo

パラメーター

I - インストール可能

- 1: インストール可能です。
- : インストールすることはできません。

c - 重要度

- c: 重大な問題に対処します。
- f: 問題に対処します。
- e: 強化機能。
- : 情報はありません。

r - 再起動

- r: このパッケージでは、アップデートを適用するためには再起動が必要です。しかしファームウェアは最新であり、アクションは不要です。
- R: 次回アップデートコマンドが実行されるときには再起動が必要になります。
- : 再起動は不要です。

version cmp - 適用済みバージョンとパッケージ内のバージョンの間の違い。

- : バージョンは同じです。

d : パッケージ内のバージョンは、現在適用されているバージョンよりも古いバージョンです。

U : パッケージ内のバージョンは、現在適用されているバージョンよりも新しいバージョンです。

オプション

特定のファームウェアパッケージまたはサブセットを操作するには、ほとんどのコマンドで、フィルター文字列を使用します。

フィルターの出力例

```
smartupdate list '%{NAME} =~ /p70/'
```

```
Searching for firmware.
```

```
Analyzing results.
```

Info	NAME	VERSION	INSTALLED	TYPE
icRU	system-p70	2015.07.01	2009.07.00	system

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_REBOOT

Windows : 1

Linux : 1

テキスト : The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED

Windows : 3

Linux : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : A general failure occurred. (一般障害が発生しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMPONENT_FAILED

Windows : -3

Linux : 253

テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

クエリ

ユーザーが定義した形式で、パッケージ情報を抽出します。

構文

```
smartupdate query
```

```
Searching for firmware.  
Analyzing results.
```

```
system-p70
```

```
-----  
-----  
%{RELEASEDATE_SECOND} 57  
%{RELEASEDATE_MONTH} 9  
%{FIRMWARE_STRING} smartcomponent-linux-firmware-system  
%{RPMNAME} hp-firmware-system-p70  
%{REBOOT_REQUIRED} yes  
%{VERSIONID} 4082a4f9023d47b082a48853ff659c08  
%{RELEASENUM} 1.1  
%{MODEL}  
%{XSL}  
%{LANGUAGE} English (US)  
%{FILENAME} CP027723.scexe  
%{PLATFORM} red_hat_enterprise_linux_x86  
%{RELEASEDATE_DAY} 3  
%{UNINSTALL_SILENT}  
%{UNINSTALL_COMMAND}  
%{PRODUCTID} 047d8b4df70c471db61bbf966870076  
%{UNINSTALL_COMMAND_PARAMS}  
%{RELEASEDATE_HOUR} 13  
%{INSTALL_NEEDUSERACCT} no  
%{PLATFORM_MAJOR} 6  
%{FIRMWARE_ID} system-p70  
%{INSTALL_COMMAND_PARAMS}  
%{VERSION} 2015.07.01  
%{FIRMWARE_NAME} system-p70  
%{ALTNAME} HP ProLiant DL380p Gen8 (P70) Servers  
%{RELEASE} 1.1  
%{NAME} Online ROM Flash Component for Linux - HP ProLiant DL380p Gen8 (P70)  
Servers
```

```
%{TYPE_OF_CHANGE} 0
%{MANUFACTURER_NAME} Hewlett-Packard Development Company, L.P.
%{DESCRIPTION} This component provides updated system firmware that can be
installed directly
on supported Operating Systems. Additionally, when used in conjunction with
Smart Update
Manager (SUM), this Component allows the user to update firmware on remote
servers from a
central location. This remote deployment capability eliminates the need for
the user to be
physically present at the server in order to perform a firmware update.
%{INSTALL_COMMAND}
%{INSTALL_SILENT} yes
%{INSTALL_COMMAND_REBOOT_REQUIRED} yes
%{UNINSTALL_COMMAND_REBOOT_REQUIRED}
%{DEBNAME} hp-firmware-system-p70
%{RELEASEDATE_MINUTE} 49
%{TYPE_OF_CHANGE_TXT} enhancement
%{RELEASEDATE_YEAR} 2015
%{REVISION}
```

消去

コマンド `smartupdate requires` でインストールするコンポーネントを消去します。

構文

Linux オペレーティングシステム用のコマンドを使用します。

```
yum erase $(smartupdate requires)
```

```
zypper remove $(smartupdate requires)
```

RPM のダウンロードがブロックされる

症状

RPM のダウンロードがブロックされる。

原因

依存関係のエラーにより、SUM が RPM をダウンロードできません。

アクション

1. 次のコマンドを使用して、SUM でエラーが発生した場合でもダウンロードを続行します。

```
yum install $(smartupdate requires) --skip-broken
```

smartupdate upgrade がエラーを返す

症状

`smartupdate upgrade` コマンドを実行すると、アップデートがインストールされずにエラーが表示される。

アクション

1. `smartupdate upgrade` コマンドをもう一度実行します。

RPM モードで Smart アレイのファームウェアが正しく処理されない

症状

SUM コマンドの `requires`、`upgrade`、および `list` は、Smart アレイファームウェアには正しく機能しません。

アクション

1. Smart アレイのファームウェアは、GUI モードまたは CLI モードで展開してください。

Web サイトおよびサポート

Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/EIL
Smart Update Manager	http://www.hpe.com/servers/sum
Smart Update Manager のダウンロード	http://www.hpe.com/servers/sum-download
Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/sum-docs
Smart Update ツール	http://www.hpe.com/servers/sut
Smart Update ツールの Information Library	http://www.hpe.com/info/sut-docs
Service Pack for ProLiant	http://www.hpe.com/jp/spp
Service Pack for ProLiant のドキュメント	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
Service Pack for ProLiant のダウンロード	http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
<i>HPE Gen10 セキュリティリファレンスガイド</i>	http://www.hpe.com/support/gen10-security-ref-ja
Service Pack for ProLiant カスタムダウンロード	http://www.hpe.com/servers/spp/custom
HPE SDR サイト	http://downloads.linux.hpe.com

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ

- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates>

- お客様の資格を確認および更新して、契約および保証をプロフィールにリンクするには、次に示す Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

プロアクティブケアカスタマー情報

プロアクティブケアセントラル

<http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral>

プロアクティブケアサービスのアクティブ化

<http://www.hpe.com/services/proactivecarecentralgetstarted>

保証情報

ご使用の製品の保証またはサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報に関するドキュメントを確認するには、「エンタープライズの安全性、規制への適合」の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。